

CONTENTS

- 02 青年会議所とは
- 04 理事長所信
- 06 理事長・専務理事あいさつ
- 08 役員あいさつ
- 13 2012年度大阪JCの活動
- 18 東日本大震災救援活動報告
- 20 OSAKAキャッスル☆ハッスル2012
- 24 2012年 日本と世界の出来事
- 26 2012年度組織図＆各委員会の事業名
- 28 会員開発委員会
- 31 子どもの「つながり」創造室
- 32 親子の「つながり」創造委員会
- 34 子どもの未来育成委員会
- 36 まちの「つながり」創造室
- 37 まちの「つながり」創造委員会
- 39 安心・安全なまち創造委員会
- 41 次代の「つながり」創造室
- 42 次代の人財育成委員会
- 44 次代の「つながり」創造委員会
- 46 総務室
- 47 広報委員会
- 49 月例会委員会
- 51 渉外委員会
- 54 総務財政特別会議
- 56 特命室
- 57 月例会
- 58 会員大会・卒業式
- 60 2012年度会員褒賞
- 62 広報活動・報道記録

Annual 2012 Report

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL OSAKA

The Creed of Junior Chamber International We Believe : That faith in God gives meaning and purpose to human life; That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations; That economic justice can best be won by free men through free enterprise; That government should be of laws rather than of men; That earth's great treasure lies in human personality; and That service to humanity is the best work of life.



JC 宣言

青年会議所とは

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所(商工会議所法制定にともない青年会議所と改名)設立から、日本の青年会議所(JC)運動は始まりました。共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもと、1950年には大阪青年会議所が国内で2番目に創設され、日本JCという国家青年会議所を設立するための重要なメンバーとして関わっていきました。また各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所(日本JC)が設けられました。

現在、全国に青年会議所があり、三つの信条(トレーニング「個人の修練」、サービス「社会への奉仕」、フレンドシップ「世界を結ぶ友情」)のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革などの社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所(JCI)のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を開いています。

大阪青年会議所の特性

青年会議所には品格のある青年であれば、個人の意志によって入会できますが、大阪青年会議所では25歳から40歳までという年齢制限を設けています。(但し入会資格は満25歳から37歳まで)これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を結集し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。会員は40歳を超えると現役を退かなくてはなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。

各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られています。会員は1年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動に展開しています。青年会議所におけるさまざまな実践トレーニングを経験した活動分野は幅広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば国会議員をはじめ、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

大阪青年会議所の歴史

1995年	「国連広報局よりNGOとして承認 阪神淡路大震災における組織的支援活動
1992年	「地球市民大阪ひろば（市民参加型集約事業）」を実施
1990年～93年	「エスノポップイン大阪（アジアの音楽祭）」を開催
1985年～	「Save The Children Japan (STCJ)」設立（大阪JCが中心となつて設立 天神祭「船渡御」への能、文楽、歌舞伎船での参加
1982年	「わんぱく相撲」を実施
1981年	「国際シンボジウム」を開催
1980年～89年	「T.O.Y.P (The Outstanding Young Person) 大阪会議」を開催
1980年～	「キッズスマッシュ（交換ホームステイ）」を開始
1980年	「JCI世界会議大阪大会」を開催
1974年～83年	「淀川マラソン」を実施
1974年	淀川改修100年を記念して「淀川100野外祭」を開催
1970年	万国博野外劇場施設及び参加催物の提供
1962年	「JCIアジアコンファレンス」を大阪にて開催
1957年	「整肢学院児童招待ドライブ」を開始
1951年	日本青年会議所創立
1950年	大阪青年会議所創立



整形学院児童招待ドライブ



ブ 淀川マラソン

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する
確かな時代を築くために
率先して行動することを
宣言する

綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者相集い力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を
築き上げよう

2012年	「第67回JCI世界会議台北大会」でプロンペンJCIとシスターJCI締結
2011年	公益法人制度改革に伴う法人格選択で、「一般社団法人」を選択
2010年	「大阪JCI創立60周年記念式典・祝賀会」開催
2008年	インド・ニューデリーのJCI世界会議にて、「2010年度JCI世界会議」が大阪に決定
2007年	社会人講師を学校に派遣した「フレ愛心援団事業」実施
2006年	「アメリカ村落書き消し事業」実施
2005年	「もうあきまへん浪速独立宣言」出版
2004年	「大阪市長選公開討論会」実施
2003年	絵本「くものこレース」出版
2002年	「淀川どろんこ探検隊」実施
2001年	次世代教育推進事業「根っ子学校」設立提言
2000年	「豊かな地球創造ミッション」を実施
1998年	「日本JCI第50回全国会員大会大阪大会」開催
1997年	「大阪JCI創立50周年記念植樹「大阪JCI実りの森」」を実施
1996年	「第2回世界遺産国際ユースフォーラム1998」を開催
1996年	第3回全国身障者スポーツ大会の後夜祭を運営し、多くの市民の皆さんと感動を共有 「ふれ愛ピック大阪後夜祭」を実施
1996年	「大阪モデル国連会議（OMUN）」開催
1996年	「大阪NPOセンター」設立（大阪JCIが中心となつて設立）



創立 60 周年記念式典



第65回JCI世界会議

社団法人大阪青年会議所
第62代理事長

杉野 利幸



はじめに

混沌とした社会だからこそ、未来の宝である私たちの子どもが豊かに、安らかに暮らせる明るい社会を実現しなければなりません。

忘れもしない2011年3月11日、東日本大震災が発生し、地震だけでなく津波被害の大きさを目(ま)の当たりにしたその瞬間、遠く見知らぬ土地に住む人びとを「大丈夫だろうか」と心配し、災害後のまちの姿を見たとき「自分にもできることは無いだろうか」と考えた方は多いのではないでしょうか。それは、同じ時同じ国で住み暮らし、実はともに生きているのだと感じ、また、世界各国の救助隊や大勢のボランティアが人命救助や復興支援を行っている姿からも、私たち自身や日本という国が様々な人と「つながり」を感じたからではないでしょうか。

「つながり」とは、今まで、この社会を築いてこられた先人から、物質的、精神的に受け継いで私たちが未来につないでいく時間的な縦軸と、今を取り巻く様々な人や出来事との関係を表す空間的な横軸で構成されています。それこそが自分自身の存在価値であり、自らを中心としたすべての「つながり」でもあるのです。その昔、難波津(なにわづ)を有し、遣隋使、遣唐使を通じて世界との受発信都市として栄えた大阪は今のように便利な天気予報や、携帯電話などもなく、人が自然と共に存する大切さや、人と人が直接接することの大切さを肌身で感じていたはずです。しかし現代では、すべてが希薄になりつつあります。それは何時でも、どこでも、誰とでも、昔に比べて関係を保つ方法も簡単に、また多種多様な方法ができたからこそ、必要な時だけつながればよいという感覚が「つながり」を希薄化しているのです。

私たちは、家族、地域、大阪のまち、果ては日本や世界、そして過去と未来における自らとの縦軸と横軸の有機的な「つながり」を再確認し、より良く、より強くすることで、様々な問題に関心を持って互いに支え、助け、思いやり、より良い社会を構築していきます。

1.子どもの幸せをかなえよう！

親は我が子の幸せを願わずにはおれません。

幸せを本当に願うからこそ、今一度、視点を変えて子どもと親自身の「つながり」を見直すことが必要なのです。我が子が誕生する瞬間、他には何も望まないから健康で生まれてきて欲しいと切に願ったものです。しかし、子どもが成長するにつれ、もっと環境の良い学校や地域での生活、さらに成績が良くなつて欲しいと親は願います。それは、自分の子どもの将来を心配し、目に入れても痛くないほど子どもの幸せを願っているからに他ならないのです。

その想いで、普段は子どもたちと接しているはずなのですが、現実は親が子どもの頃にも経験した、やる気や挑戦、失敗や挫折を温かく包んで欲しいといった子ども目線の、ともに成長していくとする状態ではなく、子どもの気持ちや立場を考えずに少なからず押しつける教育スタイルになっており、特に親が親の立場で子どもの気持ちを酌んだかのような錯覚を起こしていることが、多くの課題を生んでいる一因なのです。

「親の背中を見て子は育つ」昔から親しまれているこの言葉には、親が子の見本であるというだけでなく、子どもの立場や気持ちを良く理解して、自分の経験則や考え方から将来への指針を持って、親や社会全体が実際の行動と、その指針を子どもに伝わるように伝えて共有し、ともに歩むという意味が含まれているはずです。また、子どもは親や社会全体によって自分たちが安心して過ごせていることを理解し、他者との関係を知った上で、家族や社会との「つながり」を深めていかなければなりません。

誰であれ決して子どもを想う気持ちだけで何事も押しつけてはならないのです。子どもを育てる親や社会が、まず子どもの現状や課題、問題、気持ちを十分に知り、子どもたちに寄り添って一緒に考え、分かり合い、行動する中で、ともに成長しながら深い信頼関係で結ばれる「つながり」を再構築します。

2.みんなが創る支援の環。安全で、安心できるより良いまちにしよう！

私たちは、目には見えないが実は密接にまちとつながっています。行政、NPOそして、様々な人びとによって課題解決への取り組みや安全をともにしているのです。

まず、行政との関係は、本来私たちが納税を通じて密接に結びつき、その用途や自分たちとの関わりを一人ひとりが知った上で、自らがまちの課題解決のために行政へ積極的に関わらなければなりません。また、行政が直接取組めない、取組み難(にく)い問題については、多くのNPOや団体が解決にむけて積極的に行動しています。しかし、多くの団体は、まちを良くしたいという気概や直向(ひたむ)きな行動だけで、持続して問題を解決できる体制、とりわけ財源の確保に苦労しているのが実情です。海外では寄付や賛助という風土が根付き、まちの人びとや企業に浸透していますが、現状、私たちが働く企業や個人ではそのような仕組みには積極的ではありません。故に、現在の他者や企業との「つながり」を見直して互いが支え合う関係にしていかなければなりません。

また、今回の災害から家族や他者がつながり、互いを思いやり助け合うことを、現在や未来の突発的な事態に備えて、家族、企業、

大阪のまちに 真の「つながり」を実現しよう！ ～すべては自分ごと～ 安心して暮らせる安全なより良いまち創りをめざして

地域、まち単位で準備を進め、何時でも実行できるようにしておかなければなりません。

さらに、より強く、より深く支え合うためには、すぐにできる、共感できる、継続できる、自分の善意が人の役に立っていると実感できる、生活の中にあって特別なことでは無いことが特に重要です。

企業、団体が継続してかかわることが可能であり、且つ自分たちのまち創りをまちの人びとがいつでも、どこでも気軽に支援し、支え合い、課題に取り組み安心して暮らせる安全なまちを人、企業、行政、団体の新たな「つながり」によって創造します。

3.すべてはつながっている。大阪からより良い未来を創ろう！

実は、私たちはすべてつながっているのです。

世界では、水、食物の不足、資源争奪や、民族、宗教など価値観の違いから争いが起きています。また、一方でパンやコーヒーのように海外からの文化を多く取り入れながら、豊かな生活を送っています。この二つの事柄は、自分自身と普段は無関係であるかのように生活していますが、あらゆる製品や安全、外交、そして、災害時の互いの助け合いなど世界中から支えられて、私たちの生活が成り立っているのです。例えば、スーサンから独立し世界的な産油国となる南スーサンは、一見私たちの生活には無関係のように見えます。しかし、南スーサンが不安定になれば、石油消費国である国々のエネルギー供給バランスが揺らぎ、最後には私たちの生活や自分たちの働く職場にも大きな影響がでるのです。この例でも、自分には一見関係ない遠い地での出来事も決して無視できるものではなく、自らが積極的にすべての事柄との「つながり」について考えなければならないのです。

また、未来に向けたより良い関係を保つためには、普段は意識していない世界中の多様な価値観を持った人びとの「つながり」によって私たちが支えられていることを理解するとともに、様々な価値観を越えてより良い新たな関係を創っていく中で、世界中のあらゆる問題を自分ごと捉え、解決していくことをする姿勢が必要です。だからこそ、私たちは世界との「つながり」をより強く強化するために、互いの価値観の相違をも簡単に越えて、様々な問題の解決や協力できる柔軟な価値観を持つ次代を担う人びとを未来に向けて育みます。

私たちは、すべてが自分を中心とした「つながり」の中にあることを認識し、次代を担う人びとともに、すべてを越えてより良い未来へつなげていきます。

4.自利利他の精神で行動しよう！すべては未来のために！

『青年』—それはあらゆる価値の根源である。

大阪青年会議所（JCIC大阪）設立趣意書の一文です。

私たちは、まちのため、自分のために、今しかできない限られた時間の中で精一杯行動する青年です。その志を六十二年間積み重ねた大阪青年会議所は組織、行政、個人、企業との「つながり」を今も財産として承継しています。その先人たちが積み重ねてきた経験や工夫、そして様々な「つながり」を、将来を見据え、より効果的な運動のために未来へつなげていくことが必要なのです。また、一人ではできないことも、目標を同じくする人びとの心を合わせて行動し、自分を含むすべてを磨き、より大きな成果が得られなければなりません。

さらに、私たち大阪青年会議所を取り巻く環境の在り様も今後大きく変化するはずです。先人から承継した英知を未来に向けて変えるべきは勇気をもって変え、最良の選択の中で必要なものを後世に残さなければなりません。そのため、私たちが大阪青年会議所に属する目的や自分の目標を明確にし、自らが積極的にまちのために必要な役割と責任を果たします。

また、全員の力を集結し、何事も自分ごと捉え、自らの役割を積極的に果たしながら共通の目標を達成していくために行動します。さらに、「終わりよければすべてよし」の言葉ではなく、最初から最後まで目に見える成果に拘(こだわ)り、次代へ私たちが受け取った「つながり」のバトンを確実に渡します。

歩みは遅くとも、一步歩着実に自らの行動によって、私たちのまちがより良くなっているという「つながり」を実感できるのです。

「自分たちのまちは自分たちで創る！」

そのため今しかできないことを力合わせて一緒にやりましょう！

最後に、

自分のためだけに行動する人は利己的と言われます。

しかし、自分のことよりも他者を優先し行動すると、最後は自分自身の成長として戻ってくるのです。

何事も他者を優先させる「自利利他」の精神で。



社団法人大阪青年会議所
第 62 代理事長

杉野 利幸

**大阪のまちに真の
「つながり」を実現しよう！
～すべては自分ごと～
安心して暮らせる安全な
より良いまち創りをめざして**

社団法人大阪青年会議所第 62 代理事長 杉野利幸と申します。本年度は少々長いスローガン、テーマを下に 1 年間、大阪市民の皆様とともに活動致しました。

まずは、テーマにご賛同頂き一緒に活動して下さいました大阪市をはじめとする行政関係者の皆様、NPO、NGO など大阪市を活気溢れるまちとしていくために「つながり」を持って一緒に活動して下さった皆様、様々な面でご協力頂きました企業関係者の皆様、そして大阪市民の皆様には多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。

本年度の中でも大切な言葉、それは「つながり」です。

人と人、まちと人、そして人と文化、伝統、環境など様々な「つながり」がここ大阪にはあります。

目に見えるものもあれば目に見えないものもあります。

そのような自分で気付いていない「つながり」をも大切にできるよう地道に市民や私たちメンバーの意識改革からはじめました。その中でも人と人、人とまちの「つながり」を重視し、我がまち大阪のファンをつくりたい、私たち大阪青年会議所というツールを使って大阪のまちに貢献したいという人を多くつくりていきたいという願いから大阪青年会議所の会員として次代のリーダーを目指す多くの青年と語り合い、大阪青年会議所への入会に向けて真剣に取り組んで参りました。

そうした活動から、青年経済人として、仕事、家庭、そして公益活動を重んじる会員が年初より大幅に増え、900 余名にも及ぶ大阪市で実際に身を以って活動する団体では最も大規模な経済人組織として大阪に影響を与えるようになりました。

その中でも青少年育成、とりわけ親子や地域全体で子どもたちを育てていくという仕組みの構築、安心安全な地域づくりを目指して地域の問題を自分たちで解決する仕組み、支えあいプロジェク

トを主とする寄付文化の創造、大阪から世界を変えていくために世界中の人びとと相互理解を深め、世界で通用する人財の育成、自利利他（他のために尽くすことが最後は自分のためになる）の精神をもったメンバーの育成という 4 つの柱で実際の活動を進めて参りました。

これから活動が一定以上のご評価を頂きました詳細については後述されている各委員会頁にてご確認頂ければ幸いです。

このようなご評価を頂けたのも一重に皆様からのご協力あってのことと感謝しつつ、2013 年度も本年と変わらぬご支援を頂きますようお願い致します。

最後に、

私たちは時代が変わろうとも明るく豊かな社会の実現を目指し、我がまち大阪の発展のため自分たちの身を以って奉仕・修練・友情という 3 つの普遍的キーワードのもと今後も活動し続けていきます。

社団法人大阪青年会議所設立趣意書の冒頭に記載されている文章が私たちの原点であり、本質であります。

「青年」それはあらゆる価値の根源である。(設立趣意書より)

そして、私たちは青年であり、価値を創り続けることができる存在である。

今後とも社団法人大阪青年会議所を宜しくお願ひ申し上げます。



専務理事

阪本 祐浩

**まちに大きな影響と
発信力を發揮できる
真の「つながり」を持った
組織をめざした一年**

ために、より良いまちのために、そして、青年会議所が更なる発展していくために必要だったと確信しております。

最後になりますが、2012 年度の社団法人大阪青年会議所の活動に対して多大なるご理解を賜りご支援いただきました関係各位の皆様に本当に感謝を申し上げますとともに、2013 年度も本年度以上に社団法人大阪青年会議所に対してご支援をいただきますようにお願い申し上げます。

一年間、本当にありがとうございました。

2012 年度は杉野理事長の下、「大阪のまちに真の「つながり」を実現しよう！～すべては自分ごと～安心して暮らせる安全なより良いまち創りをめざして」をスローガン・テーマに掲げ、1 年間を通して、対内・対外に向けて数多くの活動を展開してまいりました。

本年度は、2013 年度の公益法人制度改革に伴う法人格移行に向けて更なる準備に取り組んでまいりました。さらに、専務理事として「つながり」という言葉を最も大切にしながら、組織基盤と財務基盤の充実を図り、社団法人大阪青年会議所が次のステップへと進むことができる組織になるべき 1 年間運営をさせていただきました。

対外については、今まで関係のあった行政・NPO・NGO・企業・まちの人びとの「つながり」を大切にしつつ、今後まちに必要な新たな関係を模索し、次代のまちに必要不可欠な「つながり」へと進化させることができる仕組みの構築に取り組んでまいりました。

対内に目を向ければ、組織の最も大切な資産である会員の拡大に努め、多くの会員が増え会員数 900 余名となることができました。さらに、900 余名となった会員同士が同じ組織の仲間であり、仲間同士の「つながり」がある組織になるように取り組んでまいりました。そして、スローガン・テーマの下でまちに対して大きな影響力と発信力を發揮できる組織なるべく運営をさせていただきました。

本年度行ったすべての活動が、会員が次代を担うリーダーとなる



直前理事長

池田 太八

2012年度 社団法人大阪青年会議所は、杉野理事長の掲げる「大阪のまちに真のつながりを実現しよう！」をスローガンに掲げ運動を展開して参りました。

本年度大変お世話になりました関係諸団体、各関係者、ご協力頂きました皆さまに、厚く御礼申し上げます。

「つながり」は、他者との関係を示すものであります。自分自身や団体の置かれた立場を確認する大きな指標であります。他者や他団体との「つながり」を確認することで、自分の役割や責任を認識することができるという事を本年改めて感じさせて頂きました。

この「つながり」は主催者と参画・参加者との関係においても同様です。

青年会議所が、最適最良であると判断して行った手段や事業内容であったとしても、参加者が極少数であったり、地域や対象者間に活動の効果が根付かなかつたりすれば、それは社会から求められているものではなかったり、違った対象であったと判断せざるを得ません。私たちは、その検証結果を真摯に受け止め、常に社会全体の中での私たち青年会議所の置かれた立場・役割を確認し、より有意義な活動に向け取り組んでいかなければならぬと思います。

また「つながり」というものは、個人間のみ存在するものではなく、法人・団体間にも存在し、その大きさにより関係者に与える影響も様々です。

青年会議所活動は長年に渡り、その独自性と即効性の観点か

ら単体で開催する事業が多く有りました。しかしながら近年、時代の移り変わりにより我々と同様の団体も増加してきており、その上、専門分野に特化した団体もあることから、他法人や団体との連携により開催する事業も増えつつあります。本年度は、スローガンに掲げる「つながり」を他団体にも求め、積極果敢に連携事業を行い、各組織特有の活動とのシナジーにより、今まで我々単独で行ってきた以上に効果を生み出すことができたことも本年度の特徴であったと言えるでしょう。

対個人のみでは、なかなか拡がらない寄付文化に日常生活に関係する企業の協力を得て賛同者を募ったことなどは、その最たるものであると言えます。これから私たちの活動は、この傾向をより強めて、運動の拡大こそを第一に考えてより強固な「つながり」を軸に展開していくこととなるでしょう。

最後に会員間の「つながり」です。公益法人制度の改革により会員間の相互啓発は一様に共益活動と見なされることとなりました。しかしながら、公益活動の根幹はやはり、会員相互の啓発から成り立っており、会員間の連携なくしてはより大きな運動発信はなされないと思います。社団法人大阪青年会議所は、本年度も一般社団法人としての道を歩む準備を進めて参りましたが、これは決して公益事業を行わない方針ではなく、公益活動の根幹となる会員間の啓発活動により「つながり」を拓げ、より一層大きな効果を目指してのことであります。

引き続き、ご支援ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



特別顧問

近藤 康之

す団体であるべきだろうし、2012年度もまたそうであったと思います。

今までこれからもJCI大阪が日本国全体の青年会議所活動を牽引する事を希望して、寄稿とさせて頂きます。

昨年度から今年に掛けては、日本国が大きく変化をした年でした。その事を追いかけるだけに日本中が奔走していたように思います。大阪という地域においても地域政党として発足した党が国政の一翼を担い、連日のように賛否が交わされて答えなど誰も解らない議論に、史上最低の投票率と最大の死票を生んだ選挙を経て、青年会議所活動自身も大きな転換期をまた迎えるに至りました。

これから青年会議所が持つべき方向性は、見えざる資産への自覚と運用が必要です。見えざる資産とは独自に持つ国際的な関係や、メンバーの持つ職業的技量を活かすプロボノ、経済界や政界との関係、その地域にて積み重ねて来た信用等です。

また、単年度制は長年付き合いをしている情熱的な団体への不信感へと積み重なっている場面も散見されます。独自の理念を担保しつつも、他団体への実質的支援や後援、共催などの形にこだわってはなりません。

大阪という地域に60数年に渡り積み重ねて来た地域の伝統を守るという事は、官に頼らず官を支える誇りに他なりません。それは国政にするならば小さな政府を目指す事であろうし、新しい公共と置き換えてよいものです。

JCI大阪における保守本流とは前記したような伝統を守る立場をとり続ける事であり、ステージが日本になろうと世界になろうとそれは変わりません。変化の大きな時にこそ、自分達の錨ともいべき理念を見直し、世界と時間の交差点に立ち、歴史の深淵を臨み未来を描く本懐を貫き通



**副理事長
草刈 健太郎**

私は、本年度まちの「つながり」創造室の担当副理事長をさせて頂きました。大阪のまちに真の「つながり」を実現するためには、私たちが継続してまちを築き上げていき、人と様々な団体が互いに支え合う関係が必要だと考えました。そのためには、人とまちとが関わる自覚を持ち、何事も自分ごととして捉え、ともに行動していく想いを胸に抱きながら解決すべき課題に向かう気概に溢れた人びとが必要です。まずは、大阪市・行政・企業・ボランティアの人たちと共に、OSAKAキャッスル☆ハッスル2012における大阪的グルメグランプリ事業を行いました。この事業を創り上げていく過程で様々な人々との「つながり」をもつことができ、その結果当日来場者数は約7.7万人ありました。この数字は昨年から引き続いている結果であり、継続は「力」になると確信し、この取り組みから様々な方とともにまちを創り上げていく気概がもてました。また、大阪のまちの問題として放置自転車問題に焦点をあて、放置自転車の数は全国の中でもワースト1であります。その問題を解決するためにまちの成り立ちや仕組みを理解し、まちと密接に関わっていかなければならないという強い責任感を芽生えさせが必要です。



**副理事長
出口 憲作**

本年度、社団法人大阪青年会議所は「大阪のまちに真の「つながり」を実現しよう！」～すべては自分ごと～安心して暮らせる安全なより良いまち創りをめざして～を掲げ、杉野理事長のもと、大阪のまちに私たちの掲げるスローガンの実現をめざし、900余名のメンバーが「つながり」を大切にし、組織が一丸となり運動を展開してまいりました。また、各室・各委員会が行っていく事業活動が適切な方向性もって活動していくかを慎重に確認しながら適切なアドバイスを適時行ってまいりました。そして、副理事長として子どもの「つながり」創造室を担当させていただきました。社会において子どもは未来の社会を築き上げる宝であり、だからこそ、子どもが持つ感受性を大切にし、独創性を持って積極的に行動できる子どもたちを育てる必要だと考えました。事業活動を行う上では、主に大人や地域をターゲットにし、今一度、子どもたちとの「つながり」を確認し、どのような関係になっているかを理解して頂いた上で、大人と地域で子どもたちを育していくための意識改革を行い、子どもと大人や地域との「つながり」を深いものにしていきたいと思います。

さらに、本年度は財務審議会議長の役割も

まずは、まちの人・行政・私たちと一緒にまちの問題を見つけ、数度も会合を開き自らで解決策を考え行動に移すことでありました。この取り組みや行動から自分たちのまちを創る気概に溢れた人びとが増えました。東日本大震災を背景に、大阪に安心・安全なまちの創造に向けて、ともにまちを継続的に支える新たな仕組みを構築していく想いを胸に抱きながら解決すべき課題に向かう気概に溢れた人びとが必要です。まずは、大阪市・行政・企業・ボランティアの人たちと共に、OSAKAキャッスル☆ハッスル2012における大阪的グルメグランプリ事業を行いました。この事業を創り上げていく過程で様々な人々との「つながり」をもつことができ、その結果当日来場者数は約7.7万人ありました。この数字は昨年から引き続いている結果であり、継続は「力」になると確信し、この取り組みから様々な方とともにまちを創り上げていく気概がもてました。また、大阪のまちの問題として放置自転車問題に焦点をあて、放置自転車の数は全国の中でもワースト1であります。その問題を解決するためにまちの成り立ちや仕組みを理解し、まちと密接に関わっていかなければならないという強い責任感を芽生えさせが必要です。

担当させていただきました。財務審議会では、組織が取り組む各事業に使われる予算は、900余名のメンバーからお預かりした大切な会費によって成り立っており、この大切な費用を無駄なく、最大限の効果が生むことができるか、また、事業計画に沿っているか、十分に運動を拡げることができるかを踏まえ、費用対効果をしっかりと検証させていただきました。最後に、一年間を通じて「つながり」を持つことができた行政・各種団体・市民の皆さんに大変お世話になりましたこと深く感謝申し上げますとともに2013年度も本年度以上のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げ副理事長の挨拶とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。



**副理事長
中川 翼**

2012年度社団法人大阪青年会議所では、杉野理事長の素晴らしいリーダーシップのもと、「大阪のまちに真の「つながり」を実現しよう！～すべては自分ごと～安心して暮らせる安全なより良いまち創りをめざして～」をスローガンに掲げ展開してまいりました。私は、本年度、次代の「つながり」創造室の担当副理事長をさせて頂きました。

大阪のまちに必要な財産は、国や地域などで異なる価値観を受止め、様々な問題を自ら積極的に解決しようとする意欲を持ち、未来を創造するために柔軟な発想を持った人であり、こうした人びとが次々と創出される仕組みです。大阪のまちを明るい豊かな社会にするためには、次代へ「つながり」をつくり続けるべく、今、世界中で活躍する多くの英知を大阪のまちの人びとに伝え広め、そして、大阪のまちの人びとの大人から、これから社会をリードする学生にさらに伝え広め、将来へと「つながり」をつくり続けるための新たな仕組みづくりが必要です。

そのための仕組みを模索し、構築してまいりましたが、「今、世界中で活躍する多くの英知を大阪のまちの人びとに伝え広める」ためのプログラムとして、本年度もTOP事業を成功に収め、そして、「大阪のまち



**副理事長
山本 樹育**

本年度は、会員開発委員会の担当副理事長として、大阪のまちに真の「つながり」を実現するために一年間活動して参りました。人と人、人とまちの「つながり」を重視し、大阪青年会議所の活動を通じて、大阪のまちのファン、大阪のまちに貢献する仲間を増やそうと様々な取り組みを行ってまいりました。

多くの青年経済人の方に、大阪青年会議所の活動を知ってもらうだけではなく、実際に活動を行っているメンバーとともに語り合い、大阪青年会議所の歴史を創り上げてこられた諸先輩との交流を通じて、大阪青年会議所の財産である『人』に肌で触れていただきました。その結果、私たちの活動の趣旨に賛同していただき、志を同じくする多くの仲間を迎えることができました。

そして、入会後は、様々な活動に参加するとともに、自らが、まちへ貢献する事業を新たな仲間とともに一から企画し、実行に移してもらいました。そのような活動を行うことによって、新入会員が、人との「つながり」、まちとの「つながり」を構築していく姿が大変印象的でした。さらに、一年間を通じて活動をともに行っていく過程で、様々な困難を乗り越えながら他の仲間と切

の人びとの大人から、これから社会をリードする学生にさらに伝え広める」ためのプログラムとして、PCY事業を開催することができました。また、本年度、特筆すべきこととしてしましては、PCYサポートクラブとしての支援計画が具体化され、本年度PCYプログラム参加学生から、世界中にPCY運動を展開すべく、その第一弾としてジンバブエにて、新規事業の企画が提案されるところまでまいりました。これらも、2012年度もこれまでと変わらずお支え頂きました、行政、各種団体、個人の皆様方のおかげです。心より感謝御礼を申し上げます。

そして、来年度以降も、社団法人大阪青年会議所により一層のご高配を賜ります事をお願い申し上げます。

磋商し、自らを成長させ、友情が育まれていきました。

会員開発委員会は、「未来のまちに魅力あるリーダーを溢れさせよう！」をテーマとしておりましたが、本年度だけではなく、次の世代にとても魅力ある多数のリーダーを育成することができました。

自らを中心として、現在のこの世界に存在するあらゆるものとの空間軸の「つながり」を横軸とし、過去から未来への時間軸の「つながり」を縦軸と捉え、それぞれに真の「つながり」を築くことが私たちの使命でした。

本年度は、この「つながり」の起点となる、大阪のまちにとって魅力あふれるリーダーを育成することができました。次代においても、このリーダーたちの活躍を期待するとともに、これからも、大阪青年会議所が大阪のまちにとって必要とされるリーダーを継続して増やして参ることをここに誓います。

一年間ありがとうございました。そして、今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



**監事
善野 良**

2012年度社団法人大阪青年会議所では、杉野利幸理事長の大きいリーダーシップのもと、「大阪のまちに真の「つながり」を実現しよう!~すべては自分ごと~安心して暮らせる安全なより良いまち創りをめざして」をスローガンに掲げ、私は監事として全事業が円滑に、そして組織としての運営が適正に展開されていることを確認して参りました。

本年度は次代へのつながりを創るべく、全てを他人事とするのではなく、全てはつながっていることを意識し自分事として物事を捉え、大阪のまちに真の「つながり」を実現すべく様々な取り組みが大阪のまちで展開されました。まず対内については、2013年度の公益法人制度改革に伴う法人格移行に向けての更なる準備が円滑に行われました。また対外については、今まで関係のあった行政・NPO・NGO・企業・まちの人びとの「つながり」を大切にしつつ、今後まちに必要な新たな関係を模索し、次代のまちに必要不可欠な「つながり」へと進化させることができる様々な仕組みの構築に取り組んでまいりました。

また、社団法人大阪青年会議所が大阪のま

ちの次のステップへと進めることができる組織になるべく組織基盤の新たな人材に多数ご入会頂き、900余名を誇る組織となり、今後も大阪のまちに大きな影響を与えることが出来る組織となったことも確認しております。

最後になりますがこれらも、ひとえに2012年度もこれまでと変わらずお支え頂きました、行政、各種団体、個人の皆様方のご協力のもと実現出来たと考えております。心より感謝御礼を申し上げます。そして、来年度以降も、社団法人大阪青年会議所により一層のご高配を賜ります事をお願い申し上げます。

2012年度大阪JCの活動

1月

10日 新年名刺交換会



ホテルニューオータニ

14～15日 池田会議・総会



講師：東ちづる氏 池田不死王閣

22日 京都会議



国立京都国際会館

23日 入会セミナー



17日 月例会



寺尾仁志氏 with human-note 帝国ホテル大阪

23日 ビジネスセミナー



講師：小松克己氏 帝国ホテル大阪



講師：林修一氏 帝国ホテル大阪

2月

14日 セイブザチルドレンジャパンコンサート



Save the Children
Annual Charity Dinner

16日 月例会



講師：ガツ石松氏 帝国ホテル大阪



早稲田大学国際会議場

5日 新入会員入会式



帝国ホテル大阪

17日 社会イノベーター公志園



嬉野台生涯学習センター

3月

14日 セイブザチルドレンジャパンコンサート



Save the Children
Annual Charity Dinner

16日 月例会



講師：ガツ石松氏 帝国ホテル大阪



嬉野台生涯学習センター

4月

5日 新入会員入会式



帝国ホテル大阪

7日 新人セミナー



嬉野台生涯学習センター

4月

12日 日本JC会頭訪問



20日 月例会



23日 異業種交流会



5月

12日 わんぱく相撲大阪市大会



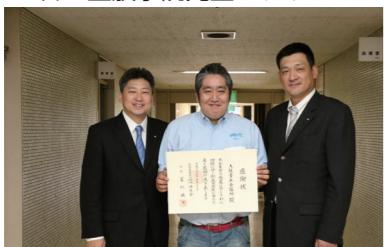
12日 親子フェスタ



23日 北地域8LOM合同例会



26日 整肢学院児童レクリエーション



6月

2日 新人セミナー

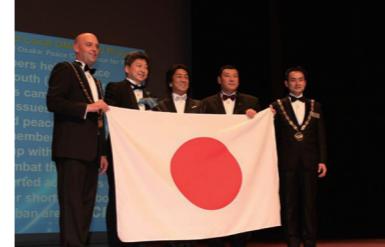


7～10日 ASPAC 香港大会



6月

7～10日 ASPAC 香港大会



22日 月例会



7月

13日 月例会



20～22日 サマーコンファレンス



8月

1日 PCYセミナー



18・19日 はぐくみアフタースクール



9月



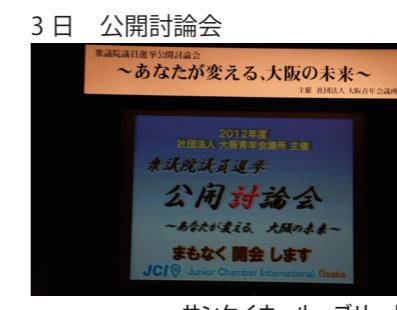
10月



11月



12月





東北の子どもたちに笑顔を!

JCI 社団法人 大阪青年会議所 石巻専修大学



大阪青年会議所では、2012年度も引き続き、復興支援活動を行いました。

3月10、11日には、盛岡市で行われた日本JC主催の復興創造フォーラムに杉野理事長、阪本専務、涉外委員会のメンバーが参加しました。

また、「東北の子どもたちに笑顔を!」プロジェクトも継続しています。このプロジェクトは石巻専修大学と大阪青年会議所が連携し、東日本大震災により被災した宮城県石巻の子どもたちを対象に笑顔を溢れさせるために行っている事業です。

2012年も、石巻市内の小・中学校、幼稚園、保育所にマスクを送付し（計100万枚以上）、義援金募集活動も引き続き行いました。

8月25、26日のOSAKAキャッスル☆ハッスル2012においては、石巻やきそばなど石巻の名産を販売する協同ブースを出店しました。



OSAKA キャッスル☆ハッスル !! 2012

会場：大阪城西の丸庭園 特設ステージ

8/25(土) 15:30~

8/26(日) 14:15~



昨年に引き続き、8月25日、26日の2日間にわたり、OSAKA キャッスル☆ハッスル 2012を開催しました。イベントは、大阪城西の丸庭園の特設ステージを主会場として、指相撲を957人が一斉に行う「ギネス世界記録™に挑戦！」や「音楽フェスタ♪」、大阪的食文化の伝播を目的に味の名店50店を集めた「大阪的グルメグランプリ」などが開催されました。2日間を通じての来場者は約77,000人、「大阪的グルメグランプリ」の売上金の5%を東日本大震災の支援金として寄付しました。「大阪的グルメグランプリ」の結果は、グランプリ（売り上げ第1位）「神田川」、大阪市市長賞（売り上げ第2位）「泉州かしみん焼き はこ」、大阪青年会議所 理事長特別賞（売り上げ第3位）「もつマニア」でした。

26日のイベント終了後と、翌日の27日午前8時からは清掃を行いました。



開会式



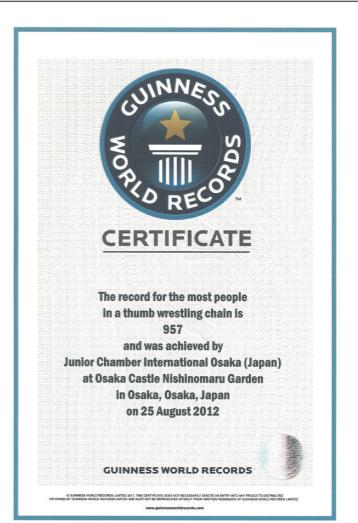
世界ギネス記録™に挑戦



大阪的グルメグランプリ



点灯式



ギネス世界記録™の認定証



大阪的グルメグランプリ



1月

- 13日 野田第1次改造内閣が発足
14日 中華民国総統に馬英九氏が再選
20日 東京大学が秋入学移行を発表

2月

- 18日 天皇陛下の心臓・冠動脈バイパス手術が行われる
21日 アフガンでISAF(国際治安支援部隊)要員がコーラン焼却、大規模反米デモ発生
29日 東京スカイツリー竣工



3月

- 1日 国内初の格安航空会社「ピーチ」が運航開始
4日 ロシア大統領選挙第1回投票でウラジーミル・プーチン候補が当選
11日 各地で東日本大震災1周年の追悼式が行われる
16日 新幹線100系・300系が引退



新幹線100系

4月

- 1日 熊本市が20番目の政令指定都市に
ミャンマー連邦議会補欠選挙でアウン・サン・スー・チー氏が当選
11日 金正恩氏が朝鮮労働党第1書記に就任
14日 新東名高速の御殿場-三ヶ日間が開通
22日 トキのひなが誕生、自然界では36年ぶり

5月

- 5日 国内の原子力発電所が全て稼働停止
6日 フランス大統領選挙でフランソワ・オランド氏が勝利
15日 沖縄本土復帰40年記念式典開催
21日 日本全国各地で金環日食が観測される



金環日食

6月

- 2~5日 エリザベス女王即位60年祝賀行事が行われる
4日 野田第2次改造内閣が発足
6日 日本や韓国、オーストラリアなどで、金星の太陽面通過が観測される
三笠宮家寛仁親王殿下ご逝去
15日 オウムの高橋克也容疑者を逮捕(3日菊池直子容疑者を逮捕)

7月

- 11日 大津いじめ自殺問題で滋賀県警が大津市教委と中学校を捜索
11~14日 「平成24年7月九州北部豪雨」が発生
27日 第30回夏期五輪ロンドン大会が開幕(～8月12日) 日本は史上最多38個のメダルを獲得



ロンドンオリンピック選手団。解団式にて (写真:アフロ)

8月

- 6日 NASAの無人探査機(キュリオシティ)が火星に着陸
10日 社会保障・税一体改革関連法が参院で可決され成立
韓国の李明博大統領が竹島上陸を強行
22日 ロシアが世界貿易機関(WTO)に加盟

9月

- 8日 橋下代表が「日本維新の会」結成を宣言
11日 尖閣諸島を国有化
21日 民主党代表選で野田佳彦氏が再選
26日 自由民主党総裁選で安倍晋三氏が当選

10月

- 1日 野田第3次改造内閣が発足
8日 京都大学の山中伸弥教授、ノーベル生理・医学賞を受賞決定
12日 EUのノーベル平和賞授与を発表
23日 レスリングの吉田沙保里選手に国民栄誉賞授与を決定



iPS細胞について説明する山中伸弥教授 (写真:アフロ)

11月

- 6日 アメリカ大統領選挙でバラク・オバマ氏が再選
15日 中国共産党、総書記に習近平氏を選出
17日 「太陽の党」が解党、「日本維新の会」に合流
19日 宇宙飛行士の星出彰彦氏ISSでの長期滞在を終え、帰還
27日 「日本未来の党」結成、「生活」と「脱原発」が合流決定



再選を決めたバラク・オバマ大統領 (写真:アフロ)

12月

- 12日 北朝鮮が「人工衛星」と称するミサイルを発射
16日 第46回衆議院議員総選挙実施、自由民主党が政権を奪回
東京都知事選で猪瀬直樹氏が初当選
19日 韓国大統領選で朴槿恵氏が当選
26日 第2次安倍内閣発足
27日 「日本未来の党」分党

2012年ヒット商品 『2012年ヒット商品番付』より (SABCコンサルティング発表)

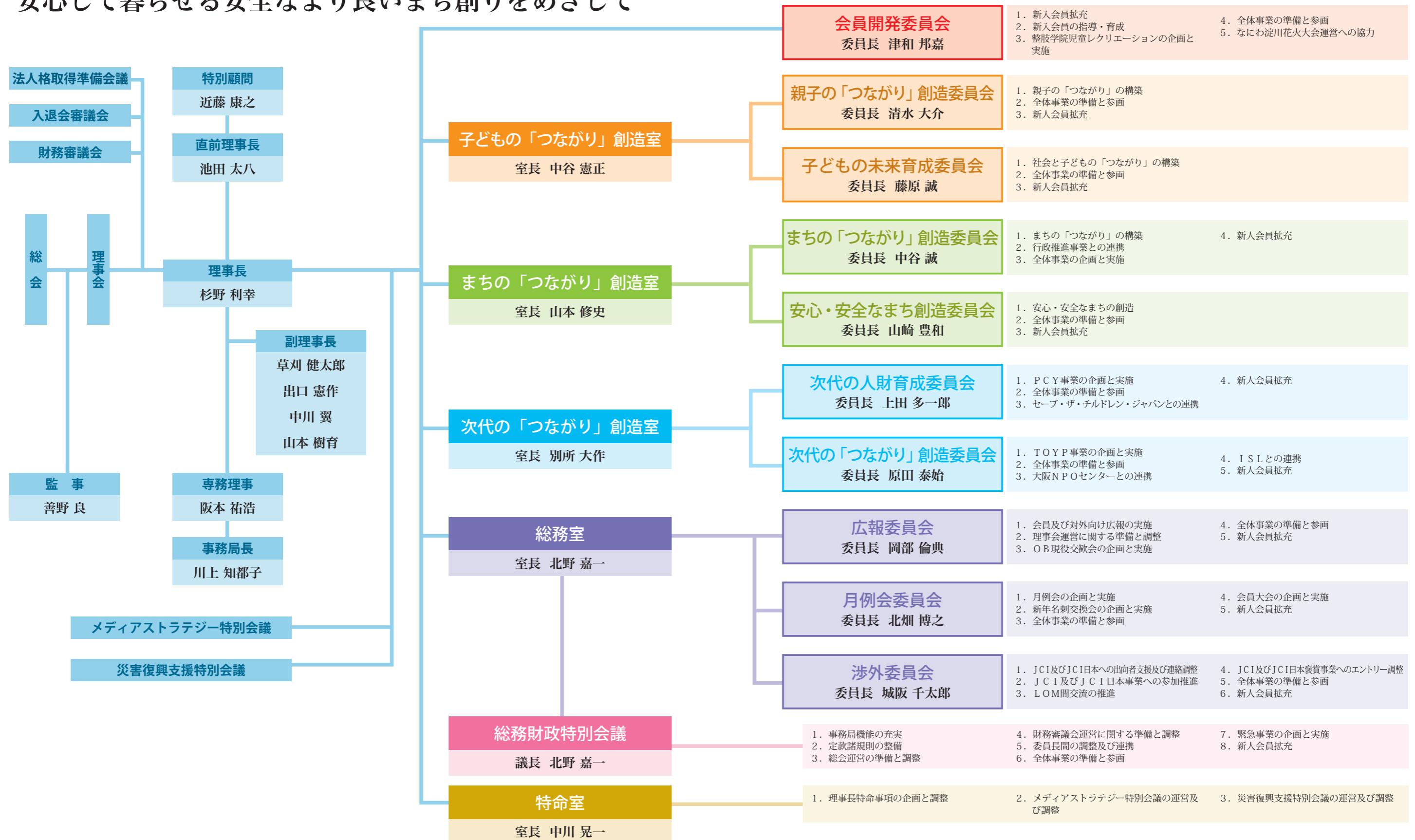


- タブレットPC
- LCC
- 「マルちゃん正麺」
- 小型ハイブリッドカー「AQUA」
- 「フィットカットカーブ」
- 塩こうじ
- 「さくら色LED照明」
- 「レノアハビネスアロマジュエル」



大阪のまちに真の「つながり」を実現しよう！

～すべては自分ごと～
安心して暮らせる安全なより良いまち創りをめざして



会員開発委員会

Membership Development Committee

基本方針 未来のまちに魅力あるリーダーを溢れさせよう!

私たちは、自らと組織に対する誇りを持ち、諦めず積極果敢に挑戦していく気概を有し、他者への感謝の気持ちと支え合う心を携え、不屈の精神を抱く仲間と共に理想の実現へ強く拘り、人びとと価値観を共有して未来のまちを描く魅力溢れるリーダーを創出します。

事業報告

1. 新入会員の指導・育成

- 事業の内容 4月入会式
- 実施日時 4月5日
- 場所・会場 帝国ホテル
- 参加人数 計画:299名(新人170名/旧人129名) 結果:197名(新人139名/旧人58名)
- 実施方法の工夫 厳格な雰囲気のもとJCI大阪を代表する先輩として鳥井信吾先輩にご講演いただき、入会式を行うことで、伝統あるJCI大阪の雰囲気を感じてもらうことが出来ました。
- 事業目的に達した点 当日実施するアンケートの内容の中で、「新人対象アンケート」の鳥井先輩の講演を中心とした設問で、Aよくできた、Bできた、C少しできた、の回答を合わせて83%以上獲得しました。

2. 新入会員の指導・育成

- 事業の内容 4月新人セミナー
- 実施日時 4月7~8日
- 場所・会場 嬉野台生涯学習センター
- 参加人数 計画:299名(新人170名/旧人129名) 結果:186名(新人117名/旧人69名)
- 実施方法の工夫 入会式に続き、厳格な雰囲気のもと新人セミナーを行い、野外活動プログラムでは仲間との交流をメインに多数のプログラムを実施しました。グループディベートでは今後のJC活動にも繋がる、人に想いを伝えることの大切さを認識してもらいました。
- 事業目的に達した点 当日実施するアンケートの内容の中で、「新人対象アンケート」1~5の設問で、Aよくできた、Bできた、C少しできた、の回答を合わせて86%以上獲得しました。

3. 整肢学院児童レクリエーションの企画と実施

- 事業の内容 整肢学院の児童に対してイベントブース、全体アトラクション、食事ブースなどの企画を行い、一日お世話することで大阪青年会議所の事業を行うまでの、議案作成のプロセス、事業実施までのプロセスを学んでいただき、今後、大阪青年会議所を背負っていってくれる魅力溢れるリーダーを創出することを目的に事業を行いました。
- 実施日時 5月26日
- 場所・会場 大阪府立整肢学院
- 参加人数 計画:451名 結果:417名
- 実施方法の工夫 新しく入会した新人メンバー事前の見学会、企画会議によって事前に考慮の必要な点を示していくことで、子供達のおかれている環境を知り理解を深めます。また、学院内との調整・意見交換を図るなかでより精度の高い企画を行ってもらいました。また、会員開発委員会旧人メンバーには、新人への指導育成の場面を提供することでこれまでの経験から適切なアドバイスを行い、事業を成功に導くよう指導育成する責任を自覚してもらいました。
- 事業目的に達した点 事業を通して1人では良い事業ができないことを、肌身をもって感じてもらい、小委員会の協力を引き出す重要性を学んでもらいました。これにより、目的である、他者への感謝の気持ちと支え合う心を持ってもらえたと判断できました。振り返り会、検証会の新人リーダーの報告には当初と違った今後の活動への前向きな思いのこもった報告が出来るようになっていました。これを見た他の新人が、今後行われる新人企画事業にて、リーダー、サブリーダーをしたいと希望を積極的にだすようになっています。
- 事業目的に達しなかった点 事業目的に達しなかった点は無かったが、当事業は入会後初めての事業となり、この事業の成果によって積極的に参加するメンバーと、参加しないメンバーがはっきり分かれています。この重要な時期に、会員旧人メンバーが協力して新人の参加促進をしたり、話をきいたりすることで事業への参加意識を高める努力をしなければなりません。事業当日の参加率をアップすることができれば、事業のプロセス、JCの面白さを知ることができ、後の事業に積極的に参加し、魅力溢れるリーダーの創出につながります。

4. 新入会員の指導・育成

- 事業の内容 6月入会式
- 実施日時 6月2日
- 場所・会場 帝国ホテル
- 参加人数 計画:87名(新人34名/役員23名/旧人30名) 結果:64名(新人17名/役員21名/旧人26名)
- 実施方法の工夫 今回は、帝国ホテルにて6月入会式を行いました。ホテルでできたこともあり例年に比べてJCI大阪として厳格な雰囲気での入会式ができたとおもいます。
- 事業目的に達した点 当日実施するアンケートの内容の中で、「新人対象アンケート」1の設問で、Aよくできた、Bできた、C少しできた、の回答を合わせて90%以上獲得しました。

5. 新入会員の指導・育成

- 事業の内容 6月新人セミナー
- 実施日時 6月2日
- 場所・会場 帝国ホテル
- 参加人数 計画:68名(新人38名/旧人30名) 結果:44名(新人18名/旧人26名)
- 実施方法の工夫 直前にランチョンミーティングを行ったことで、お互いが打ち解けないままセミナーに入るといったことも回避でき、活発な議論ができます。
- 事業目的に達した点 当日実施するアンケートの内容の中で、「新人対象アンケート」2~4の設問で、Aよくできた、Bできた、C少しできた、の回答を合わせて90%以上獲得しました。
- 事業目的に達しなかった点 グループディベートにて「うまく自分の言葉が出なかった」とD回答が1名でした。ディベートの形式を経験してもらうだけでなく、自分の言葉を導き出せるように進行係から促してもらいます必要があります。

6. なにわ淀川花火大会運営への協力

- 事業の内容 なにわ淀川花火大会運営への協力:当日運営/翌日清掃
- 実施日時 8月4日・5日
- 場所・会場 淀川右岸左岸堤防一帯
- 参加人数 【当日運営】計画:計643名:(対外200名・対内443名) 結果:計465名:(対外119名・対内346名)/【翌日清掃】計画:計1,908名:対外1,443名・対内465名 結果:計711名:(対外469名・対内242名)
- 実施方法の工夫 今回は一層の広報活動に力を入れ、JCI大阪のホームページ、Facebook、テレビにて花火大会をPRしました。また昨年より継続しているごみ分別を徹底しました。
- 事業目的に達した点 自分たちのまちを自分たちで創るために広報活動を強化し、多数のボランティアの方に参加して頂きました。アンケートの参加されたきっかけの質問に対し65%の方が広報活動による来場者ということが判明しました。また理想のまちを創る一環としてゴミの分別を実施し協力して頂いた結果、1トン以上の資源ごみを回収できました。また頂いたコメントも概ね好評で、花火事業をJCI大阪が協力していることを初めて知り、今後も続けてほしいという内容が多かったです。参加者のアンケート結果の平均点数は90%以上を取得しました。

委員長 津和 邦嘉



STAFF

幹事	副委員長	委員	稻次 啓介	川又 充	末廣 徳司	津川 裕介	二宮 彰久	松本 直高	山崎 誠也
井上 幹盛	大野 育生	青木 慎次	井上 陽介	菊田 智之	杉本 智則	篠山 邦男	野田 智久	松本 悅典	山崎 由佳
富田 博文	川田 貴亮	青山 達至	上田 佳世	坂井 政一	鈴木 圭史	辻本 和久	畠中 学	丸山 浩介	幸松 哲也
長岡 泰史	田中 忠和	小豆澤 弘人	上原 英雄	阪野 純理	瀬川 文武	徳永 智也	花木 浩二	道野 弘済	横野 智彦
森下 雄司	谷間 真裕	足立 洋平	上村 千代	阪野 瑞穂	高橋 顯明	中神 明生	久田 哲生	宮寄 宗行	吉嶺 亜希子
	寺岡 龍朗	新井 善久	延堂 修一郎	佐野 肇	高橋 友香	中川 興一	平原 和之	宮崎 真典	米村 栄一
	中村 渉	池上 嘉晃	大浦 徹	更家 一徳	竹田 哲之助	中川 貴嗣	福田 大輔	村尾 尚太郎	渡辺 俊一
	原田 崇	石倉 達也	大西 雅也	澤田 英士	田中 剛志	中西 基晴	福本 義人	森田 哲通	
	八木 弘晃	石丸 健	奥田 知之	芝伏 佑介	谷中 克行	西谷 かおり	藤田 廣志	森村 洋右	
		泉田 裕史	梶谷 七恵	島村 真以	田村 大作	西出 誉	藤本 勝仁	山内 理子	
		和泉 恵幸	川崎 史裕	赤代 理史	力石 英治	西本 真悟	間嶋 靖典	山口 貴士	



子どもの「つながり」創造室

Children Links Development Department

つなごう!子どもたちの未来に向けて!

親子の「つながり」創造委員会

- 親子フェスタ
- ギネス世界記録™に挑戦

子どもの未来育成委員会

- 社会と子どもの「つながり」の構築



室長
中谷 憲正

本年度、大阪のまちに真の「つながり」を実現するために、子どもの「つながり」創造室では、「つなごう!子どもたちの未来に向けて!」をテーマに掲げ、一人ひとりの光輝く幸せな未来を願い、それぞれの持っている独創性や豊かな感受性をぐみ取り、何事にも恐れることなく積極的に挑戦し続ける気運を有し、将来の進むべき方向性を共有する、深い信頼関係で結ばれたコミュニティが必要であると考えました。そのために、子どもの立場や気持ちを理解し、それぞれが持つ多様な感性を尊重し、社会全体でチャレンジしようとする意欲を育み、先人から承継した経験則や考えをもとに未来への道を描き、子どもと大人がともに成長していく確固たる「つながり」を築きあげていくことを目的に、一年間を通して運動を展開して参りました。

当室では、大阪のまちに上記の「つながり」を築くべく、親子の「つながり」創造委員会、子どもの未来育成委員会の2委員会がそれぞれの運動を推進いたしました。

親子の「つながり」創造委員会では、未来への夢をともに膨らませていく関係を構築していくために、親子の「つながり」構築事業(大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会in親子フェスタ)を手法として用い、光輝く未来へとともに歩もうとする意欲を育み、親と子の結びつきをより深めながら、夢を描き膨らませていく気概を醸成して参りました。

また、子どもの未来育成委員会では、光輝く未来を創る子どもたちを地域全体で育てる意識を高めていくために、社会と子どもの「つながり」構築事業(社会人講師、野外教育)を手法として用い、子どもたちと同じ目線で世の中を見つめ、失敗を恐れることなく積極果敢に挑戦する子どもたちを温かく見守り、ともに成長していくとする意欲を育んで参りました。

さらに、子どもと大人がともに成長していく深い信頼関係を築くために、OSAKA キャッスル☆ハッスル2012において、「ギネス世界記録™に挑戦!」を実施し、大きな目標に立ち向かうことによって、未来への夢をともに膨らませていく関係を築き、大人が変われば子どもや自らの人生が変わるものではなく地域や社会が変わっていくことを共有し、互いに成長しながら深い信頼関係で結ばれる確固たる「つながり」を築き上げました。

親や地域の大人の意識が変われば、子どもや自身の人生が変わるだけでなく、地域が変わり、社会が変わります。親が変わり、子どもの心を育てることで、その子どもはやがて親となり、次の世代の子ども達の心を育てるという循環が生まれ、次代へとつながっていくのです。最後に、ご支援ご協力を頂きました行政、学校、各種団体、関係各位に心より感謝申し上げます。

親子の「つながり」創造委員会

Parent-Child Bonds Development Committee

基本方針

私たちは、未来ある子どもを見守り育てるという気概を持ち、常に子どもの模範であるという意識を高め、物事に挑戦する前向きな気持ちにさせる使命感を抑え、子どもの立場や気持ちと同じ目線で捉え、未来への夢をともに膨らませていく関係を構築していきます。

事業報告

1. 親子フェスタ

■ 事業の内容 大阪市内全ての小学生とその親を対象とし、従来の「わんぱく相撲大阪市大会」を親子で様々な取り組みができる「親子ブース」とともにくくりとして、「親子フェスタ」を企画・実施し、親子の「つながり」の構築をしていきました。

■ 実施日時 5月12日

■ 場所・会場 大阪府立体育会館

■ 参加人数 計画: 親子1,500組 結果: 親子3,147組

■ 実施方法の工夫 たくさんの親子に参加してもらうため、従来の「わんぱく相撲大阪市大会」という企画ではなく、わんぱく相撲に参加しない子どもでも楽しめる「親子フェスタ」の企画をしました。大阪市全域の311校の小学校まわりに加えて、一般企業やスポーツ団体等にも広報活動していました。

■ 事業目的に達した点 第31回わんぱく相撲大阪市大会を単独の大会とせず、様々な親子を取り組みができる「親子フェスタ」の中の一つとして行い、多数のボランティアの参加と企業から協賛してもらうことで、未来ある子どもを見守り育てるという気概を持ってもらい、わんぱく相撲や親子で一緒に取り組みをする親子ブースにおいて、子どもの模範であるという意識を高めてもらい、子どもに挑戦させる使命感を携えてもらい、親子とともに夢を膨らませていく関係を築いてもらうことができました。

2. ギネス世界記録™に挑戦

■ 事業の内容 大阪のまちに住み暮らす親子を対象とし、親子でギネス世界記録™という大きな挑戦と一緒にすることで、子どもの立場や気持ちと同じ目線で捉え、未来への夢をともに膨らませていく関係を構築していきました。

■ 実施日時 8月25日

■ 場所・会場 大阪城西の丸庭園 特設ステージ

■ 参加人数 報告 計画: 846人 結果: 957人

■ 実施方法の工夫 参加人数が達成されないとギネス認定がされないので、登録人数集めにおいて、1000人を超える事前登録人数を確保していきました。参加人数を確保する為に、新聞や雑誌での広告と記事、Facebookやツイッターでの広報もしてきました。

■ 事業目的に達した点 親子でギネス世界記録™という大きな挑戦と一緒にすることで、親が子どもと同じ目線で子どもの様々な感情を感じてもらい、また世界記録達成の瞬間には親子での達成感とともに親子の「つながり」を感じてもらい、親子で夢を膨らませる重要性を認識してもらうことができました。



委員長 清水 大介



私たち親子の「つながり」創造委員会では、この一年間一組でも多くの親子が「つながり」を築けるように、または築くきっかけができるように運動を推進してまいりました。親と子どもがともに夢を膨らます関係を築くことを目的として、5月に今年で31回目の「わんぱく相撲大阪市大会」を従来の大会とせずに、「親子フェスタ」という親と子どもで様々な取り組みと一緒にできる企画を立て、その中の一つとして「わんぱく相撲」を位置付けました。親子の「つながり」をテーマとしてメンバー全員で従来の小学校まわりだけではなく、一般企業まわり、スポーツ少年団まわり等、幅広く広報活動をした結果、親子の「つながり」の重要性を認識していただき、参加人数は大きく増加しました。事業当日は、挨拶の奨励、親子の応援スライドショー、そして様々な親子ブースが会場内外で相乗効果を引き出し、今年初めて実施したアンケートからもわかったように、ほとんどの親は子どもと一緒に夢を膨らます機会の重要性を認識され、親と子どもの心の「つながり」を大いに実感できる大会にすることができました。

また、全体事業にて行った「ギネス世界記録™に挑戦」事業では、夏の炎天下ではありましたが、たくさんの親子に「つながって 5 分間の指相撲」に参加頂き、結果として現世界記録 846 人を上回る 957 人の参加人数でギネス世界記録を達成することができました。参加した親子のほとんどが、親子で参加することで子どもの立場や気持ちと同じ目線で捉え、「親子での達成感」や「親子のつながり」を存分に感じていただきました。

これらの事業によって、親が子どもとともに夢を膨らませる、親子の「つながり」の重要性を広く大阪のまちに拡げることができました。ご支援くださいました皆様に心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。

STAFF

幹事	副委員長	委員	榎本 剛士	梶川 健介	小畠 剛平	中井 章裕	林 智也	宗川 暢一	柚野 寿和
阪野 由一	江川 浩司	石金 正彦	圓藤 政臣	鎌田 弘幸	芹奈 慶一	長尾 明成	原 有佳里	村井 敦	吉岡 思利
佐々 一樹	高井 昌昭	稻山 敦子	奥野 雅明	川崎 勝郎	辰己 幸司	中嶋 啓介	肥田野 茂	森實 隆一	吉田 賢俊
森本 大吾	高橋 康智	岩崎 圭祐	奥村 果瑞宮	河内屋 英徳	出口 一馬	中森 章	廣瀬 一平	森下 憲太郎	依田 久実
山出 敏太郎	中川 正義	岩谷 良平	長村 みさお	木村 隆行	道風 真里子	朴 憲久	堀江 雄一郎	森田 佳代子	山田 英範
	日野岡 信一朗	浦田 芳一	蔭久 駿昌	草分 陽一	土肥 宏彰	土生 康晴	三上 則行		



子どもの未来育成委員会

Making Children's Dreams Committee

基本方針

私たちは、時には子どもたちと同じ目線で世の中を見つめ、常に模範となるという自覚を持ち、失敗を恐れることなく前向きに挑戦する子どもたちを温かく見守り、ともに成長する意欲を抑え、光輝く未来を創る子どもたちを地域全体で育てる意識を高めていきます。

事業報告

1.社会と子どもの「つながり」の構築

■ 事業の内容 社会人講師授業(子ども未来塾2012)の実施
 ■ 実施日時 平成24年6月～平成25年3月末
 ■ 場所・会場 大阪市内小学校(309校)
 ■ 参加人数 計画:2,472名(対外:2,400名(40名×60校)・地域社会人講師10名/内:52名+10名 社会人講師を実施するJCメンバー(当委員会+他委員会) 60校 60時間 結果:3,470名(対外:3,398名・地域社会人講師10名/内:52名+10名社会人講師を実施するJCメンバー(当委員会+他委員会) 65校 110時間)※2月末日現在

■ 実施方法の工夫 ◎TOSS大阪しあわせによる模擬授業勉強会を年9回実施。◎一般の方を地域社会人講師として育成と授業の実施。◎すべての授業を体験型学習とした。◎当委員会メンバー、他委員会メンバー(日本JCグローバルコミュニケーション確立委員会出向者含む)・OBとの連携と授業の実施。◎大阪市教育委員会のお力添えを頂き幹事校長会において年4回事業紹介を頂いた。

■ 事業目的に達した点 1. 地域社会人講師の募集と育成／大阪JCメンバーやOBだけでなく、地域の大人の方々にも社会人講師として、教壇に立って頂く機会を提供するために講師の募集を実施するとともに講師の育成を行いました。
 2. 社会人講師授業の実施／社会人講師として教壇に立って頂くことで、子どもたちの模範となる自覚を持って頂けるだけでなく、互いに支えあって暮らししていくことや、自ら子どもたちとともに成長していくこうとする意欲を醸成してもらいました。
 3. 社会人講師モデルの普及と検証会の実施／大阪市教育委員会・社会人講師授業実施小学校・財団法人大阪市教育振興公社児童いきいき放課後事業部・TOSS大阪しあわせ・地域社会人講師の方々、そして地域の大人の方々にお集まり頂き中間報告会を9月27日に実施し、社会と子どもの「つながり」の構築事業検証会を12月14日に実施致しました。
 4. 野外教育の実施／野外教育は学校というコミュニティを離れ、自然の中で子どもたちが実体験を通じて学び、たくましく成長するためには地域の大人たちと協力して地域全体で子どもたちを育てていこうとするためのプログラムとして、遠里小野地域をモデルケースとして実施いたしました。企画段階から地域の方々に参考頂き、内容の構築・実施を行うことで地域内での大人たちのつながりも拡がり、今回の事業をきっかけに新たに5名の方が地域教育活動に参加されました。また、天候悪化により予定をしていた一部のプログラムと野外での宿泊はできませんでしたが、野外活動における警報発令の意義を大人たちのみならず、子どもたちや参加されていない保護者の方々にも再認識頂けたことは意義深いものでした。
 5. 地域の大人がいきいき放課後授業への拡がり／本年度は通常の授業時間以外に大阪市が実施する「児童いきいき放課後事業(愛称:いきいき)」の時間へも拡がりました。これまでの4～6年生を対象とした授業だけでなく、全年年を対象とし、野外教育で実施したプログラムを軸に授業を実施させて頂くとともに地域社会人講師の方々の更なる活躍の場としての創造に繋がりました。

■ 事業目的に達しなかった点 当初住吉区内でのモデルケースを予定していたが、応募が少なかったため大阪市全域より地域社会人講師を募集することとなった。



1.社会と子どもの「つながり」の構築

■ 事業の内容 野外教育(はぐくみアフタースクール2012 in サマーキャンプ)の実施
 ■ 実施日時 平成24年8月18日・19日
 ■ 場所・会場 泉南市立青少年の森・岡田浦漁港
 ■ 参加人数 計画:141名(対外:45名(住吉区連合町会15名・遠里小野小学校児童30名)/内:96名) 結果:141名(対外:45名(住吉区連合町会15名・遠里小野小学校児童30名)/内:96名)

■ 実施方法の工夫 ◎野外教育モデル構築。◎地域会議の実施。(大阪JC/地域・小学校)◎ワークショッププログラムの実施。(生きる力・温故知新プログラム/創作共同料理プログラム/コミュニケーションプログラム(マジック)/いのちと社会の「つながり」プログラム/地域環境・食育プログラム)
 ◎地域社会人講師授業の実施

■ 事業目的に達した点 34ページと同様

■ 事業目的に達しなかった点 大阪に大雨洪水警報、雷注意報が発表され、1日目の途中でプログラムの中止を決定した為に、創作共同料理プログラムを実施できず、共同作業による協調性や、子どもの意見を取り入れる柔軟な発想、誰かのために新しいものをつくりだす思いやりや創造力の重要性を認識してもらうことが出来ませんでした。

2.全体事業の準備と参画

■ 事業の内容 「The most people in a thumb wrestling chain」の実施
 ■ 実施日時 平成24年8月25日
 ■ 場所・会場 大阪城西の丸庭園 特設ステージ
 ■ 参加人数 計画:846名 結果:957名

■ 実施方法の工夫 参加人数が達成されないとギネス認定がされないので、登録人数集めにおいて1,000人を超える事前登録人数を確保していました。参加人数を確保するのに、新聞や雑誌での広告と記事、FBやツイッターでの告知も行いました。

■ 事業目的に達した点 大人と子どもがギネス世界記録™という大きな挑戦と一緒にすることで、大人が子どもと同じ目線で子どもの様々な感情を感じてもらい、また世界記録達成の瞬間にともに地域全体で子どもたちを育していく重要性を認識してもらうことができました。

■ 事業目的に達しなかった点 広報計画に関しては更なる検討が必要であると考える。

委員長 藤原 誠



私たちは、大阪のまちに真の「つながり」を実現するために、一年を通して、光輝く未来を創る子どもたちを地域全体で育てる意識を高める運動として、「社会と子どもの「つながり」の構築事業」(社会人講師授業・野外教育)を行わせて頂きました。本年度の社会人講師授業の特色としては当委員会メンバーだけでなく、大阪青年会議所全メンバー、さらには地域社会人講師を育成し、一般の方々にも教壇に立って頂く機会を創造致しました。そして、通常の授業時間だけではなく、放課後の「いきいき」の時間にも拡がり、「いきいき放課後授業」として授業を実施させて頂きました。また、今年は野外にも目を向け、8月18・19日に「はぐくみアフタースクール2012 in サマーキャンプ」として野外教育を実施致しました。子どもたちが互いの目標に向かう中で失敗や挫折をも成功への糧として積極果敢に挑戦する場を創出し、懸命に挑戦する子どもたちの直向的な姿を愛情溢れる心で育てていこうとする意欲を育むことが出来ました。さらに、集約事業として同室の親子の「つながり」創造委員会と共に「OSAKAキッズル☆ハッスル2012」において、大人と子どもが一緒にやってギネス世界記録™に挑戦する「The most people in a thumb wrestling chain」(指相撲)を実施させて頂き、参加者957名全員の心を一つにして挑戦した結果、ギネス世界記録™に認定されました。

私たちは、時には子どもたちと同じ目線で世の中を見つめ、常に模範となるという自覚を持ち、積極果敢に挑戦する子どもたちを見守り、ともに成長する意欲を抑え、光輝く未来を創る子どもたちを地域全体で育てる意識を高め、大阪のまちに真の「つながり」を実現しました。

最後になりますが、一年間を通してご協力いただきました行政、学校、各種団体、企業、個人のみなさまに心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。

STAFF

幹事	副委員長	委員	尾崎 宏明	吉良 俊彦	白川 将之	永島 昭彦	原 英彰	益田 治子
熊野 賢	安藤 利江	阿部 孝治	小野山 匠海	小森 省吾	鈴木 隆介	中辻 史記	東 壮一	水野 竜完
小島 雅士	井上 誠	石井 直人	櫻畠 貴典	佐川 宏治	錢高 久善	西原 広徳	日吉 廉三郎	村上 瑞穂
森井 智士	岡田 善照	石床 敏	桂 直樹	塙津 立人	高橋 大輔	西村 信一	深田 博司	門司 秀晃
森下 真男	桐元 久佳	伊藤 良夏	北川 希美	嶋袋 雅之	徳村 聰	濱野 裕司	福井 隆浩	八木 重治
須磨 勇	小川 茉子	清岡 義教	首藤 豊武	友田 光昭	林 桂三	牧 隆之		



まちの「つながり」創造室

Community Links Development Department

手をつないでいこう！安全で安心なまち創りに向けて！

まちの「つながり」創造委員会

- つながりクリエイト
- OSAKAキャッスル☆ハッスル2012

安心・安全なまち創造委員会

- 全体事業の準備と参画(実機体感説明会)
- 安心・安全なまちの創造(ともにまちを支える仕組みの説明会)
- 安心・安全なまちの創造(寄付型バル OSAKA GARDEN 2012)
- 安心・安全なまちの創造(ともにまちを支える仕組みの報告会)



室長
山本 修史

本年度、まちの「つながり」創造室では「手をつないでいこう！安全で安心なまち創りに向けて！」をテーマに掲げ、大阪のまちに真の「つながり」を実現するためには、自分たちの住み暮らすまちへの愛着心に溢れ、未来のまちを自身で築いていく強い信念を持ち、理想とする未来とともに思い描き、他者を思いやり助け合う心を胸に抱き、継続してまちを築き上げていく、互いに支え合う関係が必要だと考えました。そして、互いに支え合う関係を実現するために、まちと密接に関わる自覚を持ち、何事も自分ごととして捉え、理想のまちの姿を共有し、ともに行動していく想いを胸に抱き、解決すべき課題に向かって補完し合い、まちを自分たちで創っていく気概に溢れた人びとを増やし続けることを目的に一年間を通して運動を展開してまいりました。

まちの「つながり」創造委員会では、まちの「つながり」の構築、行政推進事業との連携として、OSAKAキャッスル☆ハッスル2012における大阪的グルメグランプリ事業を行い、さらに、まちの問題として過去にも取り組んできた放置自転車問題に焦点をあてて、まちの成り立ちや仕組みを理解し、自らを取り巻く様々な事象に関心を持ち、自身とまちとの関係を再認識し、まちと密接に関わっていかなければならないという強い責任感を芽生えさせ、また、同じ目的に向かって協力し合い、何事も自分ごととして捉えて自らの見識をもって判断する力を備え、ともに行動していく意識を有した、自身の力でまちを創る気概に溢れた人びとを増やし続けてきました。また、安心・安全なまち創造委員会では、安心・安全なまちの創造に向けて、ともにまちを継続的に支える新たな仕組みを構築すべく、寄付型の飲料自動販売機の事業などを行いました。そして、その事業を通じて、それぞれの立場や役割を超えてまち全体でつながり、より良いまちを創りあげていくために必要な共通する目的を見出し、さらに、まちの人びとが手と手を取り合い、それぞれが持つ長所を組み合わせてより大きな相乗効果を生み出していく連帯感に溢れ、いかなる事態に対しても直ちに支え合える関係に向けて、より良い未来が実現できる有益な方向へと導いていき、自身の力でまちを創る気概を持った人びとを増やし続けてきました。

まちの「つながり」創造室の「手をつないでいこう！安全で安心なまち創りに向けて！」というテーマのもと各委員会の事業を行うことで、自身の力でまちを創る気概を持った人びとを溢れさせ、大阪のまちに真の「つながり」を実現させることが出来ました。

最後に、一年間を通してご協力いただきました行政、各種団体、企業、個人の方々に心より感謝申し上げるとともに、今後ともより一層のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

まちの「つながり」創造委員会

Community Links Development Committee

基本方針

私たちは、住み暮らすまちへの愛着心に溢れ、まちを取り巻く様々な課題に対して関心を持ち、一人ひとりの想いがつなぎ合わされた理想とする未来の目標を掲げ、目的の実現に向けてより多くの人びとと協働し、まち創りに積極的に参画する意欲を高めていきます。

事業報告

1.つながりクリエイト事業・第1～9回・報告会

- 事業の内容 放置自転車問題への取り組み並びに報告会
- 実施日時 7月～11月
- 場所・会場 住吉・大正区
- 参加人数 計画：1,200人 結果：700人

■実施方法の工夫 アイデアを多くの人びとに頂くために、各学校、連合会にまわりました。

■事業目的に達した点 自らが住み暮らすまちの素晴らしさを、改めて知ってもらうことで、だれもが心の中に持ち合わせているまちを愛する気持ちを高めて頂き、日々の生活中で普段は自分ごととして関心を持つことのないまちの問題の一つでもある放置自転車対策に関心を持ち、問題解決に向けて多くの市民にアイデアを頂き、より良いまちの未来のために思いをひとつにつなぎ合わせ、問題解決に向かって行動へと移すきっかけとなり、まちへの想いを高めてもらうことが出来ました。

■事業目的に達しなかった点 予定人数が、計画の時より少ない人数になったことは、多くの人びとに運動発信を広げていくことができなかったと思いますので、そこが達成できなかった面だと考えます。

2.OSAKAキャッスル☆ハッスル2012

- 事業の内容 大阪的グルメグランプリ並びに音楽フェスタ
- 実施日時 8月25～26日
- 場所・会場 大阪城・西の丸庭園
- 参加人数 計画：51,000人 結果：77,000人

■実施方法の工夫 出店していただく店舗探しと、チケット売り場の設置場所を工夫させて頂きました。

■事業目的に達した点 大阪のまちを、食を通じて元気にしたいという人びとと一緒に力を合わせてグルメグランプリを開催したこと、自らの意思でまち創りに参画する人びとを創造することが出来ました。また、大阪的グルメグランプリが大阪の人びとの手で創られ、活気あるまちをより多くの市民に体感してもらったことで、まちへの想いを高めてもらうことが出来ました。

■事業目的に達しなかった点 概ね、事業目的は達成しましたが、音楽フェスタに関しては、多くの人びとに運動発信ができなかったので、そこが達成できなかった面だと考えます。



**委員長
中谷 誠**



私たちまちの「つながり」創造委員会では、今年一年、一人でも多くの人びとに自らの意志をもって、まち創りに積極的に参画しようとする意欲を高めて頂くために、「つながりクリエイト事業」・「OSAKAキャッスル☆ハッスル2012」を大阪のまちに向けて、運動発信を行ってまいりました。まず、「つながりクリエイト事業」では、自らが住み暮らすまちの素晴らしさを、改めて知つてもらうことで、だれもが心の中に持ち合わせているまちを愛する気持ちを高めて頂きました。そして、日々の生活中で普段は自分ごととして関心を持つことのないまちの問題の一つである放置自転車対策に関心を持って頂き、問題解決に向け多くの市民にアイデアを頂き、より良いまちの未来のために思いをひとつにつなぎ合わせ、問題解決に向かって行動へと移すべきになることをこの事業で感じてもらうことができました。そして、「OSAKAキャッスル☆ハッスル2012」においては、行政の方々や、大阪のまちをを通じて元気にしたいという人びとと一緒に力を合わせてグルメグランプリを開催することで、自らの意志でまち創りに参画する人びとを創造することができました。また、大阪的グルメグランプリが大阪の人びとの手で創られ、活気あるまちをより多くの市民に体感してもらえたことで、まちへの想いを高めてもらうことができました。このように年間の事業を通じて、大阪のまちに住み暮らし人びとを巻き込み、地域協議会、行政、市民と共に、地域の問題に対し話し合い、行動を重ねる中で、自らの意志でまち創りに積極的に参画する意欲を高めるための事業を実施することができました。

今後も共に活動した人びとを中心に、この取り組みが進化していくことを確信し、今年度ご協力いただきました皆様に対して改めて感謝と御礼を申し上げます。本当に一年間ありがとうございました。

STAFF

幹事	副委員長	委員	加藤 元之	杉浦 由華	田中 昌浩	濱 真司	古田 久統	山田 憲一
金本 裕己彦	荒木 清樹	青木 香織	金沢 浩一	世古口 佳典	谷 英輝	坂東 善夫	前田 貴弘	山田 隆則
林 洋一	大河内 義之	渥美 宙	金澤 学	節和 寿志	遠越 栄一	東原 栄志	増田 光均	山廣 昌司
福田 宏清	加藤 伸隆	大内 一孝	黒松 宏史	高橋 良門	中井 順一	備前 秀和	南 収平	山本 健一朗
吉田 直人	芝 健一郎	大西 正敏	合田 佳史	宝本 美穂	中島 章悟	日根野谷 裕一	村井 庄文	山本 雅仁
			小松原 徳人	田川 英紀	中条 一樹	平松 知也	村上 亮介	湯浅 史高
			中尾 浩	奥田 昌己	竹下 達也	中郷 義英	福地 真也	吉田 幸司
			比良 昌弘	奥野 正己	信田 光晴	田中 康作	西村 有子	藤村 一朗
							森 一平	渡辺 克哉



安心・安全なまち創造委員会

Safe and Livable Community Creation Committee

基本方針

私たちは、まちに住み暮らす一人でも多くの人びとが参画し、それぞれが当事者として果たす役割や責任を理解し、自らの与えられた役割に対し直向きに取り組み、他者を支え思いやる自利利他の精神を携え、ともにまちを継続的に支える仕組みを構築していきます。

事業報告

1.全体事業の準備と参画(実機体感説明会)

- 事業の内容 「ともにまちを継続的に支える仕組み」の構築の為、本事業の仕組みを全体事業を通じて見える化することで、全ての参加者に体感して頂き、本事業の必要性に気づいて頂く事業を行いました。
- 実施日時 8月25日、26日
- 場所・会場 大阪城西の丸庭園 特設ステージ
- 参加人数 計画:2,000人 結果:2,465人
- 実施方法の工夫 本事業を見える化するために、将来、街中に置かれる予定の寄付型自動販売機(まちこちゃん専用ラッピング済み)を公園内に持ち込み、実際に購入して頂くことで、利用者が購入した商品の購入代金の一部を現実としてまちに寄付される仕組みを体感して頂くスキームを構築しました。
- 事業目的に達した点 2,465名の方に寄付型自動販売機での購入をして頂き、寄付型自動販売機を用いて「ともにまちを継続的に支える仕組み」の意義を知つて頂く事ができました。寄付・賛助を行う寄付型自動販売機の実機を展示させて頂くことで、目の前に実在する寄付型自動販売機が自分のまちを支えるしくみであることを理解して頂き、利用者としての役割を果たして頂く事ができました。さらに、事業当日にも寄付型自動販売機の導入を考えて頂ける申込者も獲得することができました。

2.安心・安全なまちの創造(ともにまちを支える仕組みの説明会)

- 事業の内容 行政・企業・団体・市民の全ての方々と一緒に説明会を開催し、参加者全員ができる事を語り、互に知ることで、「ともにまちを継続的に支える仕組み」を構築していきました。
- 実施日時 10月1日、4日、16日、25日
- 場所・会場 東淀川区民会館、住吉区民センター、大阪市中央公会堂、オーク4番館
- 参加人数 計画:延べ 240人 結果:延べ 138人
- 実施方法の工夫 本事業は行政・企業・団体・市民が一体となって仕組みを構築します。各々が持ち合わせている、できる事を合わせることでまちを支えることを知って頂きます。その4者が一堂に会する機会を提供することで参加者全員に気づきを得てもらう機会を提供しました。
- 事業目的に達した点 行政・企業・団体・市民の方に参加して頂き、各々の実際の声を聴くことができる機会を提供することで、今まで1人では気づかなかつたことに気づいて頂く事が出来ました。そして、自らがどのような行動をすることで、まちを支えることができるかという事を知って頂ける機会を提供することができました。
- 事業目的に達しなかった点 説明会の事前告知において、今までに存在しない仕組みの為、チラシや口頭説明だけでは本事業の趣旨を理解して頂くのに時間がかかり、会場まで足を運んで頂く事が難航しました。また、行政の参画においても各地域の温度差があり、行政参加者は4区開催中、2区となりました。

3.安心・安全なまちの創造(寄付型バル OSAKA GARDEN 2012)

- 事業の内容 「ともにまちを継続的に支える仕組み」の運動を一般団体が主催する事業に組み入れて頂くことで、事業の参加費の一部をささえあいプロジェクトに寄付して頂き、参加者全員で支え合う仕組みを構築しました。
- 実施日時 11月18日
- 場所・会場 長居公園
- 実施方法の工夫 一般団体の主催者が発行する、ポスター、チラシ、ウェブサイト等に社団法人大阪青年会議所の名前、本プロジェクトのキャラクターの記載、本プロジェクトへの寄付を行う旨を記載頂き、イベントに参加する一般参加者にも本事業の趣旨を理解して参加して頂き、「ともにまちを継続的に支える仕組み」を構築しました。
- 事業目的に達した点 まちが一体となって行っている一般団体主催の事業に、社団法人大阪青年会議所が構築した仕組みを組み込むことで、まちの人びとの行動(参加)がまちを支える仕組みとなり、集まった寄付金がまちを支える原資となり、さらに参加された方もこの新しい仕組みに共感して頂く事ができました。



4.安心・安全なまちの創造(ともにまちを支える仕組みの報告会)

- 事業の内容 「ともにまちを継続的に支える仕組み」のモデル地区(東淀川区・北区・住吉区・港区)で行ってきた事例を参加者全員で共有することで、「ともにまちを継続的に支える仕組み」の重要性を認識して頂きました。
- 実施日時 11月26日
- 場所・会場 大阪市中央公会堂
- 参加人数 計画:150人 結果:169人
- 実施方法の工夫 先行してモデル地区での実施を行い、そのモデル地区の事例を成功例・失敗例を含めて、活動してきたことを有りのまま報告して頂くことで、次年度以降に対する取り組む課題・方法をわかるようにしました。また、協力して頂いている企業・団体の発表の場も設け、様々な立場からのご意見を頂けるようにしました。
- 事業目的に達した点 新しい仕組みを実際に行った事例を元に、様々な立場の人びとから教えて頂くことで、この仕組みの重要性と、これからまちに本仕組みが必要であるという事を参加者に理解して頂く事ができました。また、次年度以降から取り組んで頂ける他の地域の方も参加し、本仕組みの重要性を深めて頂くことができました。

委員長

山崎 豊和



安心・安全なまち創造委員会では、「ともにまちを継続的に支える仕組み」をテーマに、新規事業として「安心・安全なまちの創造」を行いました。

私たちは、どのようにすれば自分たちが住み暮らすまちを守ることができるのかを考え、「安心・安全なまちの創造」のためには、まちに住み暮らす一人でも多くの人びとが参画し、それぞれが当事者として果たすべき役割や責任を理解し、自らの与えられた役割に対し直向きに取り組み、他者を支え思いやる自利利他の精神を携え、ともにまちを継続的に支える仕組みを構築していくべきだと考えました。

私たちの委員会では、それらを実現していく為に、あらゆる場面での可能性を考え、どのようにすれば効果的に、また、継続的に人びとが取り組むことが可能なのかを考えました。そして、たどり着いた結果、普段皆さんが利用し支払いをしているものの中から寄付を募り、かつ、利用者にも負担がかからず、企業にも利益をもたらし、そして、利用した場所の地域の安心・安全が継続的に守られる仕組みを構築することとなりました。全ての人びとが、利用方法を少し変化させるだけで、お互いにWINWINの関係になり、まちを継続的に支えることができる仕組みとなります。そして、その目標を利用者すべての人びとに関わる「災害ボランティアの育成・構築」「災害救助用品の備蓄」にテーマを絞り、寄付金を利用して頂く事にしました。本事業は「ささえあいプロジェクト」と名付けられ、イメージキャラクターの「まちこちゃん」とと共に事業展開を行いました。この「まちこちゃん」の表示がある場所では、参加する利用者の皆様が、まちを継続的に支えることができる「ささえあいプロジェクト」に簡単に参画することができるというわかりやすい仕組みを構築しました。本年度は、清涼飲料水メーカー2社様の御協力により、専用の寄付型自動販売機を大阪市内に設置することができました。また、本仕組みを活用し、一般団体が主催した「OSAKA GARDEN 2012」(食のイベント)にも採用をして頂き、多くの寄付金を集めることができ、大阪市の各所に寄付を行なう事ができました。この寄付金の利用は1年間かけて青年会議所が作成したホームページで公開される仕組みとなっており、利用者がどのように寄付金が使われたのかが簡単にわかる仕組みとなっております。

今後も、大阪のまちから「ささえあいプロジェクト」が様々な形で利用され、自らのまちを自らの手で継続的に支える仕組みがさらに拡がることが重要であると考えます。

STAFF

幹事	副委員長	委員	今田 晴久	越田 泰生	玉山 善博	中島 慶人	藤澤 泰子	矢野 正治
伊津 元博	大西 直	新井 康能	植松 大介	小林 雄	恒元 直之	中野 義晃	三戸 淳	山本 明史
小池 竜平	林 慶人	池元 宏行	小川 孝史	小室 豊	鶴谷 秀樹	中本 慎一郎	皆川 友範	山本 榮克
森高 悠太	藤井 章弘	伊藤 勝彦	奥田 勇	篠原 基宏	寺川 康治郎	範倉美 口ニール	森下 新太	湯田 善規
若松 耕三	藤重 智明	伊藤 豊	川上 碓	正田 智也	徳永 真介	畢 志鵬	保井 美紀	吉川 美聖
			細川 直人	乾 二起	黒田 淳子	竹内 万征	中尾 健太郎	柳本 顕
					深井 信也		和倉 康博	



次代の「つながり」創造室

Next-Generation Nexus Development Department

次代を切り拓く人財を創造しよう!

次代の人材育成委員会

- PCYセミナー
- 世界学生平和会議
- PCY2012メインフォーラム

次代の「つながり」創造委員会

- TOYP
- ISLとの連携事業

室長
別所 大作

本年度、次代の「つながり」創造室では大阪のまちに真の「つながり」を実現するために、室テーマとして「次代を切り拓く人財を創造しよう!」を掲げ、地球上で起こるすべての事象と密接に関わっている事実を理解し、国や地域などで異なる価値観を受け止め、様々な問題を自ら積極的に解決しようとする意欲を持ち、未来を創造するために柔軟な発想を持った人びとを溢れさせるために、時代の潮流を俯瞰的な視点から的確に掴み、世界中の人都と通ずる普遍的な人類共通の目的を抱き、より良い未来に向けて自分たちに課す使命を果たし、それぞの異なる価値観を超えて、次代を切り拓く根幹となる前向きな行動力を創る。この室方針の下、次代の人材育成委員会、次代の「つながり」創造委員会の2委員会で大阪のまちに一年間運動を展開し続けて参りました。

次代の人材育成委員会では、2010年度より継続しておりますPCY事業を拡大海外、国内から次代を担う秀れた学生を募り、選考基準を明確にして24名を選抜し、10月4日~10日の1週間開催致しました。本年は世界平和に向けてPCYメンバーが未来に向けて力強く羽ばたく当事者としての意欲を育むことを目的とし、大阪大学星野教授、過去2年の卒業メンバーの皆様のお力添えを頂き、事業立案、実施そしてNHK大ホールでPCYフォーラムでの最終プレゼンテーションというプログラムを用いた目的達成を目指しました。本年の特色として「世界平和の実現につながる持続発展可能な仕組み」を具体的に練り上げ、各々のプレゼンへの評価を明確化、そして投票により選抜されたプランをグループで磨き上げていく仕組みを導入し、連携する力と挑戦する意欲を養いました。結果一人の学生も漏れることなく、言葉の垣根を越え事業プランをメンバー全員で練り上げることで学生に世界を牽引するリーダーとしての気概が醸成されたと確信しております。

また、次代の「つながり」創造委員会では、未来を切り拓くために世代を越えてつなげていくべき礎を確立する運動を推進するため、本年で32回目を迎えるTOYP事業、第2回社会イノベーター公志園関西大会の事業を主催しました。TOYP事業は9月2日~7日に開催し、世界から傑出したメンバーを招集、彼らのプレゼンテーションに触れる機会と共に山本化学工業様でのワークショップ、山本社長の講演を通じて次代へつなげる礎を大阪のまちの人々に発信することができました。そして、公志園では若い社会イノベーターの志にふれることで次代のリーダーとしての気概を醸成しました。

当室ではこれらの事業を通じ、次代を見据え意欲をもち、柔軟な発想力をもち行動する人びとを溢れさせることを目的として一年間通じて活動して参りました。4度目の国難とよばれる現在、私たち大阪青年会議所は大阪のまちの人びとに自分たちで未来を切り拓く意欲を醸成し、この素晴らしいまちを次代に残す責任があることを自覚してもらうことが出来ると信じて活動していくことが重要であると考えます。

次代の人財育成委員会

Future Generations Development Committee

基本方針

私たちは、解決すべき諸問題を的確に捉え、世界の人びとと共に価値観の相違を越えた大いなる理想を掲げ、強くたがる情熱でいかなる課題にも果敢に挑戦し、一人ひとりが自らの役割を積極的に果たし、未来に向けて力強く羽ばたく当事者としての意欲を育みます。

事業報告

1.PCYセミナー

■ 事業の内容 国内学生を対象にしたPCYの認知度向上およびPCY本事業への参加意欲育成事業(国内学生選考を兼ねる)。

■ 実施日時 8月1日

■ 場所・会場 TKP梅田センター

■ 参加人数 計画:国内学生:50名、メンバー:100名、合計:150名 結果:国内学生:23名、メンバー:82名、合計:105名

■ 実施方法の工夫 実際のPCYの雰囲気を味わってもらうため、PCYで行うグループディスカッションとプレゼンテーションを模擬的に実施しました。

■ 事業目的に達した点 国内学生の選考の場を兼ねることで、書類選考だけでなく、より幅の広い視点からの参加学生選考を可能としました。

PCY事業概要、2010年度に作成した「世界学生平和憲章」、2011年に行った「水に関するアクションプラン」、そして本年度に行う「持続発展可能な仕組みづくり」を知ってもらうことにより、解決すべき問題を深めてもらい、PCY事業への参加意欲を高めることができました。アンケートによる本事業への参加意思表明=100%

■ 事業目的に達しなかった点 事前告知の不足により、目標人数に達することができませんでした。より早期の告知が必要です。

2.PCY Peace Conference of Youth 世界学生平和会議

■ 事業の内容 国内外の学生を大阪に招き、世界平和の実現のために何ができるのか議論し、アクションする機会を提供することによる、次代を担う若者の意欲育成事業。

■ 実施日時 10月4日~9日

■ 場所・会場 大阪アカデミア他

■ 参加人数 計画:参加学生:30名、ファシリテーター:7名、メンバー:61名、合計:98名 結果:参加学生:24名、ファシリテーター:7名、メンバー:58名、合計:89名

■ 実施方法の工夫 目指すアクションを「世界平和につながる持続発展可能な仕組みづくり」とすることで、民の力による持続発展可能な世界平和実現活動を模索しました。グループごとに考案した「世界平和につながる持続発展可能な仕組み」をプレゼンテーションさせ、評価することで各プランのメリットを明確にし、プランの融合による最終プランの構築につなげました。より多くの人によりわかりやすくするために、最終事業プランを映像でまとめ上げました。

■ 事業目的に達した点 プログラム全体を通じて、事業目的である、解決すべき諸問題を的確に捉え、世界の人びとと共に価値観の相違を越えた大いなる理想を掲げ、強くたがる情熱でいかなる課題にも果敢に挑戦し、一人ひとりが自らの役割を積極的に果たし、未来に向けて力強く羽ばたく当事者としての意欲を育むことができました。

3.PCY2012メインフォーラム

■ 事業の内容 特別講師の講演、並びに講師をPCYで導き出した事業モデル(アクションプラン)を学生たちが発表・宣言するフォーラム事業。

■ 実施日時 10月9日

■ 場所・会場 NHK大阪ホール

■ 参加人数 計画:参加学生:30名、ファシリテーター:7名、一般:800名、メンバー:500名、合計:1337名 結果:参加学生:24名、ファシリテーター:7名、一般:111名、メンバー:346名、合計:488名

■ 実施方法の工夫 PCYで考案した事業プラン「世界平和につながる持続発展可能な仕組み」を映像と学生たちのプレゼンテーションによって来場者に発表し、その後の取り組みを宣言してもらいました。過年度のPCY参加学生によるその後の活動報告の場を設けることで、年度にとらわれないPCYのフォーラムとしました。

■ 事業目的に達した点 プログラム全体を通じて、事業目的である、解決すべき諸問題を的確に捉え、世界の人びとと共に価値観の相違を越えた大いなる理想を掲げ、強くたがる情熱でいかなる課題にも果敢に挑戦し、一人ひとりが自らの役割を積極的に果たし、未来に向けて力強く羽ばたく当事者としての意欲を育むことができました。

■ 事業目的に達しなかった点 一般参加人数が想定を大幅に下回ったことにより、自らの役割を担う当事者としての意欲を育んでもらうという目的に十分に達することができませんでした。一般参加人数確保のためにも、時期、手法を考慮した十分な告知、さらにはより効果的な講師を選定する必要があります。

委員長 上田 多一郎



次代の人財育成委員会では、次代を担う若者たちの当事者としての意欲を育成するため、本年で3回目となるPCY(Peace Conference of Youth - 世界学生平和会議-)を中心とした活動を展開しました。本年度は、テーマを「a Piece of Peace ~ 平和のかけらを伝えよう~」、目指すアクションを「世界平和につながる持続発展可能な仕組みづくり」と設定し、参加学生たちが、世界平和につながる持続発展可能な仕組み=平和阻害要因を解決する事業モデルを創り出し具現化することで世界平和の実現を追求するPCYとしました。

まず、8月に国内学生を対象に、PCYへの参加意欲をより一層高めるため、また、学生たちの基礎対応力の向上のために、本年が初めての開催となるPCYセミナーを実施しました。結果として、参加学生全員がPCYへの参加を希望するなど、意欲向上の機会となりました。

そして、10月4日~9日に、世界15カ国から24名の学生たちを大阪に招いてPCYを開催しました。参加学生たちは、オープニングセレモニー、フィールドワークと備蓄再発見プログラム、グループワークプログラム、そしてPCY2012メインフォーラム、さらにクロージングセレモニーと約1週間にわたる数多くのプログラムに積極的に取り組み、課題である「持続発展可能な仕組み」を模索し続けました。また、その結果として、PCY2012メインフォーラムの場において、参加学生全員でまとめ上げた「コンポスト」を活用した農業教育と貧困問題の解決を図る事業モデルを発表し、彼ら自身で具現化に取り組んでいくことを宣言しました。

参加学生たちがPCYで得たことをもとに、より積極的に活動を継続し、意欲あふれる次代のリーダーとして世界平和実現のために活躍してくれることを期待しています。

STAFF

幹事	副委員長	委員	岡野 守晃	川合 竜夫	税所 直子	田中 盛太	中谷 公彦	髭 義隆	山岸 大晃
古賀 章広	合田 竜太	芦田 如子	岡本 英俊	姜 永守	斎藤 町子	田中 利和	中村 佳織	平川 智咲子	山崎 克将
五島 良平	伊達 将人	足立 崇	小川 徹朗	岸 脣展	笹岡 輝久	堤 大助	中村 圭佑	堀北 晶子	山本 岳二
竹澤 理	辻岡 哲也	岩本 勝浩	押村 直志	北畠 健嗣	田口 敦	津村 芳雄	秦 龍蔵	前田 修	湯川 泰行
田淵 健哉	富田 浩崇	植田 健一	金村 聰	北山 以珠美	竹内 健祐	中川 和彦	濱口 忠	宮下 修	
	吉谷 泰彰	延命寺 健志	烏山 崇	楠本 佳弘	竹下 洋司	中川 知子	早川 久美	宮下 致男	



次代の「つながり」創造委員会

Next-Generation Nexus Development Committee

基本方針

私たちは、自分ごととして為すべきことを捉え、過去から脈々と受け継がれてきた独自の価値観を再認識し、様々な事象の本質を見極める力を備え、時代の潮流を的確に汲み取り、より良い未来を切り拓くために世代を越えてつなげていくべき礎を確立していきます。

事業報告

1.TOYP事業の企画と実施

■ 事業の内容 世界より傑出した活動をしている青年5名を招聘し、私たちの中にも次代へつなげていく大事なものがあることに気付いていただきました。

■ 実施日時 9月2日～7日

■ 場所・会場 大阪市中央公会堂、山本化学工業株様、その他

■ 参加人数 計画: 500名 結果: 382名

■ 実施方法の工夫 本年は、TOYPフォーラムでの座学だけではなく、ワークショップにてゴム素材の世界的先駆けである山本化学工業株様を訪問し、議論にさらなる深みを持たせた。

■ 事業目的に達した点 事業後のアンケートにおいてもTOYPメンバーや、山本化学工業株様の行っている行動から、まちの人びとが自分の中にもあることに気づき、そしてそれが次代を切り拓くために必要であることを認識してもらいました。

■ 事業目的に達しなかった点 フォーラムの参加人数が目標に届かず、事前の趣旨の理解や、PRを効果的に行う必要がありました。

2.ISLとの連携事業

■ 事業の内容 特定非営利活動法人ISL様と高い志を頂く団体や個人と参加者が一体となり、次の時代が少しでも良くなるために真摯に語り合う場—関西公志園を主催し、当事者意識を高め、行動を促し、そしてその行動を応援する仕組みを創り出しました。

■ 実施日時 6月16日～17日

■ 場所・会場 大阪大学中之島センター、大阪ガス株式会社

■ 参加人数 計画: 198名 結果: 223名

■ 実施方法の工夫 全体を4つのグループに分け、公志園出場者の熱い思いと活動により間近に触れて頂き、全員が参加している臨場感を創り出し、より積極的な姿勢を参加者に生み出しました。

■ 事業目的に達した点 社会イノベーターと自分たちとの語り合いで共感し、共感したものが発表される姿をみて、心から応援するようになり、社会問題を解決するのは自分であることを自覚していただきました。参加者も想定人数を上回り、急遽座席を増やすことになったことでも、運動の広がりを感じることが出来ました。



委員長 原田 泰始



次代の「つながり」創造委員会では、一年を通して次代につなげていくべき礎を確立すべく運動を展開してまいりました。それは、次代を切り拓くために必要なものは私たちの中にありそれに気づき大事にし、伝えていくこと。そのためTOYP事業では、世界中より将来を嘱望される傑出した青年たち5名を招聘し、議論を重ね合い「次代を越えるつながり」をテーマに、「TOYPフォーラム」を中央公会堂において開催し、382名の方々にご参加頂き、私たち自身の中に次代へつなげていくべき大事なものがあることに気付くきっかけを創り出すことに成功いたしました。そして、本年も当青年会議所が招聘いたしましたTOYPメンバーが東宮様にご接見頂く榮誉に預かり、東京赤坂御所まで参殿してまいりました。

そして、特定非営利活動法人ISL (Institute for Strategic Leadership) と連携し社会イノベーター公志園関西公志園大会を主催いたしました。この事業は、時代が求める社会全体のリーダーの発掘、育成、支援を通じて、社会に確かな一石を投じることによって、現状を打破し未来を創り出すのは、結局のところ「人」であり、「行動」であるという確信から、行動を促し、行動へ声援と賞賛を送り、行動を心から支援する装置（プラットフォーム）を、この日本に構築せんとするものです。関西公志園では、全国大会出場者16人の奮闘に間に触れていただき、皆さんから応援、甘辛フィードバック、真摯な対話をいただく中で、出場者、応援者双方が大きな刺激を受けていただける機会として、日本中から、企業、NPO、大学関係者、学生、個人などの130余名にご参加いただき、この地球で起きている様々な事象との関係を捉え、当事者として為すべきことに対する理解を促せたものと確信しております。

STAFF

幹事	副委員長	委員	梅木 貴喜	児島 篤志	竹垣 敦啓	恵山 幸由	中林 尊信	増田 浩紀	山田 昌宏
前田 豊紀	赤阪 靖之	東 潤一郎	大西 浩平	坂 昌樹	多田 昌世	利本 萬徳	新田 雄士	三好 一郎	吉田 義章
宮秋 寛三	池上 時治郎	安部 穂之	大野 英昭	塙山 知之	田中 幸子	友井 亮輔	原田 修彦	武蔵 国弘	淀 雅和
山村 祥行	坂井原 正光	荒川 めぐみ	大橋 弘幸	渋谷 元宏	田中 崇公	中川 忠信	東浦 光利	村治 規行	
和多田 泰久	樽谷 隆弘	石塙 太一	岡村 充	高井 重樹	谷川 安徳	中島 崇	姫嶋 大輔	盛田 健史	
	山口 良里子	井上 紗	金川 佳永	高原 一磨	十川 知芳	中島 聰智	福家 一憲		山崎 新平



総務室

General Affairs Department

自覚と誇りを胸に行動しよう! すべては未来のために!

広報委員会

月例会委員会

渉外委員会



室長
北野 嘉一

2012年度総務室及び総務財政特別会議では、大阪のまちに「真の」つながりを実現するために“自覚と誇りを胸に行動しよう! すべては未来のために!”をテーマに掲げ一年間運動を発信して参りました。

魅力的な社団法人大阪青年会議所の未来に向けて、現役会員や特別会員同士がより有益な関係を築くことのできる機会を増やし、同じ目標を共有する仲間たちが自利利他の精神を持って今ある課題を自分ごととして捉えて解決し、理想を追い求めるだけではなく大阪のまちの期待に添えるべく成果に拘り、時代を牽引する青年経済人として諦めず・妥協せず・勇気を持ってめざすべき掲げた理想に邁進し、六十二年間、連綿と続く社団法人大阪青年会議所の歴史や諸先輩方の想いを会員一人ひとりが受け継ぎそして次の時代に確実に引き渡す組織が必要であると考えました。

月例会委員会では、新年のスタートとなる新年名刺交換会を開催することで、大阪青年会議所の財産である人と的一体感を感じて頂きました。毎月の月例会では、杉野理事長が掲げる目標をメンバー全員で共有すると共に、理事長所信に基づいた外部講師の講演を通じて大阪青年会議所メンバーとしての自覚を持って頂けました。また、大阪青年会議所内部に止まらず8LOM合同例会を主管することで脈々と続く青年会議所の誇りを持って頂くことができました。さらに会員大会を実施することでメンバー同士の連帯感を高めることができました。

広報委員会では、OJCタイムズ(活動報告新聞)を復活させ、会員同士の横の“つながり”を強固にすることことができました。また、OB現役交歓会では大阪青年会議所の歴史年表を作成することで、OB諸兄と現役メンバーとの“つながり”を再認識して頂きました。さらに、全ての事業報告をHPやFACEBOOKなどの広報媒体を活用することで大阪青年会議所のみならず、まちの人びとへ大阪青年会議所の運動や活動内容を発信することができました。

渉外委員会では各種大会において、委員会自らが率先して裏方となり前向きな行動力を發揮することで、メンバーに対して他者のために役立つ喜びを実感して頂くことができました。また、本年度から申請手続きが変更された褒賞(アワード)の勉強会を通じて新たな引き継ぐべき財産を構築することができました。

総務財政特別会議では、組織の要として大阪青年会議所を取り巻く環境が大きく変化する中で、大阪青年会議所が進むべき方向性を見出すことができました。2012年に培われた「つながり」を後世にバトンとして贈って参ります。一年間誠にありがとうございました。

広報委員会

Publicity Committee

基本方針

私たちは、より良い未来を創り出す変化を生みだし、担うべき役割を果たすための強い行動意欲を抱き、数多くの情報からまちを発展させる知恵を育み、一人ひとりが喜びや感動を分かち合える、活気と躍動感に満ち溢れた組織の一員としての自覚を高めていきます。

事業報告

1.OJC新聞

- 事業の内容 毎月行われた事業や活動を、対内専用の記事にまとめ、組織への期待やメンバーの活力を生む機会を構築した。
- 実施日時 2月～11月
- 場所・会場 月例会時
- 実施方法の工夫 各委員会の活動状況や出向メンバーの方々に、スポットライトを当てて、その活動を広めていきました。また、デジタルだけではなく、アナログにこだわることで、記憶や記念に残ることにも重きを置いてきました。
- 事業目的に達した点 事業速報など、各委員会、出向者が活躍していることを広めることや、対内専用のOJCタイムズで各委員会の事業を告知や報告することで、組織への新たな期待や、メンバー一人ひとりの行動力を育むことが出来た。

2.OB現役交歓会

- 事業の内容 OBと現役が、年2回交流できる貴重な機会でもあり、次年度理事長の公式での初の披露の場でもあります。この機会を通じて、活気と躍動感に満ち溢れた組織の一員として自覚を高めることです。
- 実施日時 8月8日
- 場所・会場 リーガロイヤルホテル大阪
- 参加人数 計画:630人 結果:618人
- 実施方法の工夫 大阪青年会議所の62年間の歴史を20メートルを超えるボードで、見て頂けるようにしました。また、料理は、東日本大震災で被災された地域の食材を利用して、少しでもその地域に支援ができる感じもらえるようにしました。
- 事業目的に達した点 OBと現役とが交わる貴重な機会を通して、本年度の事業の方向性、次年度理事長の挨拶、歴史等から、魅力ある組織の一員であるとの自覚を高めてもらいました。

3.大阪市や外部団体との連携広報

- 事業の内容 JCI大阪のプランディング広報活動とOSAKAキャッスル☆ハッスル2012の事業広報
- 実施日時 8月25・26日
- 参加人数 77,000人
- 実施方法の工夫 大阪市との連携に特に力を入れてまいりました。JCI大阪のプランディングを目的に、大阪市営地下鉄電車内の事業告知などで、多くの市民の皆様にJCI大阪の活動を認知してもらえたものだと思います。
- 事業目的に達した点 行政と連携を取ったことにより、JCI大阪のプランディングに寄与できた。また、JCI大阪の運動に期待感を高めてもらえた。その結果、OSAKAキャッスル☆ハッスル2012に77,000人の来場者数を迎えることが出来ました。



委員長 岡部 倫典



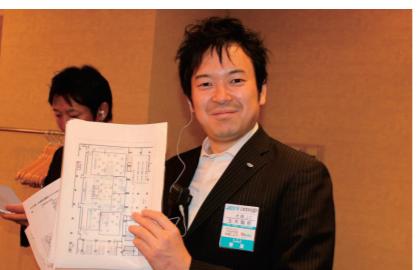
私たち広報委員会は、組織の情報発信の要としてだけではなく、組織の潤滑油的な役割を担っていることも加えて、組織運営に関する準備と調整やOBとの関わりをもつ交歓会の企画と実施なども担い、メンバー一人ひとりが組織の一員としての自覚を高めてもらうように、運動を展開してまいりました。

本年度の理事会には、公開理事会とし、また、組織の運営がどのように行われているかを理解して頂く機会として、多くのメンバーの方々に参加して頂くことが出来ました。そして、広報活動においては、ホームページやFACEBOOKをはじめとするソーシャルメディアが組織の情報発信の要であるという認識から、対内向けだけに制作するのではなく対外を強く意識し、事業告知、事業報告を中心にタイムリーな情報発信を心掛け一年間通じて行って参りました。また、8月には、OB現役交歓会を開催致しました。その特徴として、伝統ある組織の62年間の歴史をまとめた巨大ポードや東日本大震災で被災された地域の食材を使った料理の提供などを行い、参加された方々には組織に対する誇りを高めて頂くことが出来ました。同月に、OSAKAキャッスル☆ハッスル2012の事業広報として、行政との連携、その情報の収集、事業内容の即時発信を行い、参加促進にも寄与して参りました。また、組織が資産として蓄積していく情報を外部のツールや大容量保存できる媒体を利用して、データ保存の規則化、一元化にも力を入れ、各委員会が円滑にそれらの情報を活用できるようにもして参りました。

上記の広報と組織運営に関する準備と調整を行った結果、メンバー一人ひとりが喜びや感動を分かち合える、活気と躍動感に満ち溢れた組織の一員としての自覚を高めることが出来たと確信しています。

STAFF

幹事	副委員長	委員	大下 晶子	河田 英之	鈴木 廉	田原 洋司	著本 陽介	堀越 博一	山内 宰祐
池田 敬	奥村 直謙	赤坂 祐一	大谷 賢二	北本 武	鈴木 正敏	玉木 智哲	廣野 恵介	松任 鎮央	山本 紗鈴
中島 真昭	金谷 光憲	新井 敏之	大谷 耕司	酒井 七郎	竹内 孝博	徳久 健作	藤井 準	丸富 成日	吉武 涼子
松本 篤志	坂口 雅俊	上原 大助	大南 勝範	坂本 貴徳	武田 智宏	中村 誠広	藤原 雅之	宮本 恵美子	
山田 秀明	藤田 欽也	牛渡 裕也	岡 愛一郎	白崎 譲隆	田中 盛雄	西野 嘉一	古川 健一郎	諸岡 憲悟	
	森西 聖	宇都宮 和加人	置田 浩之	菅谷 義典	谷村 英高	能村 晋太郎	細川 祐介	門那 宏徳	



月例会委員会

Monthly Meeting Committee

基本方針

私たちは、一人ひとりが仲間であるという強い気持ちを携え、実現しなければならない目標を理解し、住み暮らすまちをより良くする熱い想いを抱き、それが果たすべき役割と責任を全うする自覚を持ち、積極的な行動力を伴った組織の連帯感を高めていきます。

事業報告

1.新年名刺交換会

- 事業の内容 新年を迎えるにあたり、OBと現役が、本年度の運動方針を共有する場です。
- 実施日時 1月10日
- 場所・会場 ホテルニューオオタニ
- 参加人数 計画:598名 結果:614名
- 実施方法の工夫 通常ダラダラする時間が多いので、エンタメをなくし、新年の始まりの厳かな雰囲気を創りだしました。
- 事業目的に達した点 開会前に入口付近で福娘さんから参加者に干支シールや千歳飴を振る舞い、語らいやすい空間を演出し、組織の一員である意識を高め、OBのネームプレートを用意し名刺交換のきっかけとし、会話をすることから、仲間である実感を持つことができました。パンフレットで本年度の運動方針などを知り、意欲を高め、映像やスローガン発表で活動意欲を高め、理事長挨拶で、活動意欲をさらに高めることができました。委員会で作った絵馬で現役とOBの交流のきっかけを創ることが出来ました。
- 事業目的に達しなかった点 絵馬を持っていくことで、現役とOBとのきっかけづくりは出来ましたが、連帯感を高めるための運動である、「つながり」を創ることは出来ませんでした。

2.会員大会

- 事業の内容 一年間行って来た運動の成果を発表する場と、卒業生を送る場です。
- 実施日時 12月6日
- 場所・会場 リーガロイヤルホテル
- 参加人数 計画:500名 結果:519名
- 実施方法の工夫 現役メンバー、卒業生の門出を祝うことを全体イメージとし、現役メンバー、卒業生にスポットを当て、メンバーが盛り上がる雰囲気を創り出しました。
- 事業目的に達した点 エンタメを通常の時間だけではなく、オープニングにも使うことで、全体を盛り上げるきっかけとしました。アワードでは、最優秀と優秀を分けて登壇することで、盛り上がりを創るきっかけとしました。会場内、通路や、テーブル、舞台演出など、青を基調とする色使いで演出することで、今年の運動である「つながり」を表現することが出来ました。理事長引き継ぎ式では、今年の運動達成の確認と、次年度に向けての気運を高めることができます。
- 事業目的に達しなかった点 オープニングエンタメ、本エンタメで、時間が押したこともあり、全体的に卒業生との歓談時間も少くなり、連帯感を大きく高めることは出来ませんでした。

3.月例会(1月度から11月度まで)

- 事業の内容 毎月講師を呼んで、理事長の運動方針に沿って講演頂き、気付きを得る機会とし、理事長の活動報告を聞く場でもあります。
- 場所・会場 帝国ホテル大阪
- 参加人数 結果:3,295名(8月OB現役、10月PCYは除く。)
- 実施方法の工夫 毎月メールや、声がけで参加促進をし、会場では、毎月の食事メニューに工夫を凝らしました。
- 事業目的に達した点 理事長報告で、写真データを映像でながすこと、参加者が再確認する場とし、同じ志を持った仲間である気持ちを高め、講師講演、事業報告などで、まちを大切にする気持ちを醸成し、役割を果たす責任感を高めました。
- 事業目的に達しなかった点 例会案内文の遅さや、自身の指導不足から、講師選定がうまくいかず、参加者の減員に繋がったと考えます。



4.北地域8LOM合同例会

- 事 業 の 内 容 北地域のLOMが一堂に会し、共に各LOMの運動方針を共有し、講師を呼んで学びを得る機会とします。
- 実 施 日 時 5月23日
- 場 所 ・ 会 場 リーガロイヤルホテル
- 参 加 人 数 計画:733名 結果:733名
- 実施方法の工夫 北地域8LOMのメンバーの方々が来やすい場所を決め、そして数名しか参加出来ないアトラクションではなく、参加者全員が参加出来るアトラクションとしました。
- 事業目的に達した点 第一部講師講演での事業映像で各LOMの活動状況を知る機会とし、第二部のフレンドシップサロンでは、名刺交換ゲームで交流を深め、北地域における更なる絆が出来たと考えます。
- 事業目的に達しなかった点 講師講演の内容について、自身が東京に赴かず、本人との直接の打ち合わせが出来ず、こちらの意図を完全に伝える事が出来ず、講演テーマから外れることになり、事業目的に達しませんでした。

委員長

北畠 博之



STAFF

幹事	副委員長	委員	大宗 輝義	楠 茂樹	田儀 利明	中野 繁明	福田 ひろし	村川 貴史	横田 尚三
折竹 一郎	岡本 良太	秋吉 忍	岡田 充弘	倉地 達雄	田口 善隆	中村 桂	古山 久幸	村田 崇	
佐々木 琢郎	高波 幸治	新居 壮治	岡本 真行	児玉 一厳	田村 俊浩	永本 俊秀	細井 信秀	門田 明広	
高橋 秀智	富田 かおり	市山 慎一	沖 寧能	小山 徹	辻野 晃弘	西井 重超	増田 正基	山本 浩二	
淀 洋和	森本 成俊	氏田 裕吉	香川 正和	角倉 力	鳥越 明子	西村 裕評	三品 龍介	山本 元	
	吉本 千春	大東 俊也	北野 泰弘	須山 和彦	長井 雅開	平野 耕三	宮澤 孝児	山佳 誠秀	



私たちは、大阪のまちに真の「つながり」を実現するために、一年を通して、組織の連帯感を高める運動をしてまいりました。まずは新年名刺交換会において、現役とOBの「つながり」を創るために、入口付近で絵馬シールや、千歳飴を配り、会場の雰囲気を和やかにし、さらに、OBにはネームプレートを配り、現役が声掛けするきっかけとしました。また、当委員会で作成した手作り絵馬を持ってOBのところに行き、声掛けをするきっかけとし、現役とOBが同じ組織に所属するメンバーの一人である意識を高めることが出来ました。そして、北地域8LOM合同例会では、北地域に所属するメンバー同士が、映像などから互いの活動状況を知り、アトラクションでは、名刺交換ゲームなどで、更なる絆を創ることが出来ました。会員大会では、アワードや、理事長報告などで、本年の運動である「つながり」を再確認し、理事長引き継ぎ式では、次年度に向けてさらに意欲を高める機会とし、卒業式では、仲間との今までの関わりを再認識し、これからの更なる活動意欲を高めることが出来ました。月例会では、本年度の運動に沿った講師に来て頂き、運動成果を確認したりするきっかけとしました。また、フェイスブックなどでPRをし、映像や講師講演で期待感を高め、事業PRや、誕生日報告などで、メンバー同士の絆を深めるきっかけとし、連帯感を高めることが出来ました。私たちは、一人ひとりが仲間である強い意識を持ち、目標を共有しまちをより良くする熱い想いを抱き、役割と責任を全うする自覚を携え、目標達成に向かう意識を持ち、積極的な行動力を伴った、組織の連帯感を高め、大阪のまちに真の「つながり」を実現しました。

幹事	副委員長	委員	大宗 輝義	楠 茂樹	田儀 利明	中野 繁明	福田 ひろし	村川 貴史	横田 尚三
折竹 一郎	岡本 良太	秋吉 忍	岡田 充弘	倉地 達雄	田口 善隆	中村 桂	古山 久幸	村田 崇	
佐々木 琢郎	高波 幸治	新居 壮治	岡本 真行	児玉 一厳	田村 俊浩	永本 俊秀	細井 信秀	門田 明広	
高橋 秀智	富田 かおり	市山 慎一	沖 寧能	小山 徹	辻野 晃弘	西井 重超	増田 正基	山本 浩二	
淀 洋和	森本 成俊	氏田 裕吉	香川 正和	角倉 力	鳥越 明子	西村 裕評	三品 龍介	山本 元	
	吉本 千春	大東 俊也	北野 泰弘	須山 和彦	長井 雅開	平野 耕三	宮澤 孝児	山佳 誠秀	



渉外委員会

Liaison and Coordination Committee

基本方針

私たちは、見返りを期待することなく他者を支え思いや、掲げる目標に対して積極的に取り組み、一人ひとりが主体者としての役割を果たし、互いの確実な成長に向かって同志として切磋琢磨する、組織に対する愛着や誇りを伴う前向きな行動力を育んでいきます。

事業報告

1.京都会議

- 事 業 の 内 容 JCI及びJCI日本事業への参加促進
- 実 施 日 時 1月19日~22日
- 場 所 ・ 会 場 国立京都国際会館
- 参 加 人 数 計画:228名 結果:266名
- 実施方法の工夫 新年名刺交換会や池田会議でのチラシの配布のみならず、フォーラムや各種セミナーのスケジュールをホームページや委員会MLを利用し、より多くのメンバーに参加促進を致しました。
- 事業目的に達した点 LOMナイトでは、日本JC、近畿地区、大阪ブロックに出向しているメンバーにスポットライトを当て、JCI大阪を代表して出向している自觉と多くの仲間に支えられていることを実感する場を提供出来ました。

2.香港ASPAC

- 事 業 の 内 容 JCI及びJCI日本事業への参加促進
- 実 施 日 時 6月5日~10日
- 場 所 ・ 会 場 Lホテル他
- 参 加 人 数 計画:172名 結果:230名
- 実施方法の工夫 ジャパンナイトでは、『感謝』『つながり』をテーマに掲げ、JCIメンバーに日本の伝統文化である祭りを感じて頂きました。その中でJCI大阪メンバーが、より多くのJCIメンバーと交流を図りながら主体的に役割を果たして頂くために各室ごとで参加メンバー全員にブースを担当して頂きました。
- 事業目的に達した点 委員会PRや参加者マニュアルなどをわかりやすく伝えることで、JCI事業を身近なものと感じて頂くことが出来、一人ひとりが自らの役割を主体的にかつ積極的に果たして頂き、前向きな行動力を育むことが出来ました。

3.サマーコンファレンス

- 事 業 の 内 容 JCI及びJCI日本事業への参加促進
- 実 施 日 時 7月20日~22日
- 場 所 ・ 会 場 パシフィコ横浜他
- 参 加 人 数 計画:250名 結果:335名
- 実施方法の工夫 参加者マニュアル、各種セミナー、フォーラム等の情報をタイムリーにわかりやすく配信致しました。
- 事業目的に達した点 事前にPRや、ホームページ、幹事ML等で、セミナー・フォーラム等の情報を共有できたりもあり、最終の記念撮影までたくさんのメンバー様に参加して頂き、JCI大阪の存在感や一人ひとりの前向きな行動力を育んで頂くことが出来ました。

4.近畿地区天理大会

- 事 業 の 内 容 JCI及びJCI日本事業への参加促進
- 実 施 日 時 7月15日
- 場 所 ・ 会 場 天理大学
- 参 加 人 数 計画:275名
- 実施方法の工夫 大懇親会では、『つながり』をテーマに掲げ、食を通じたコミュニケーションを図りメンバー同士の繋がりを感じて頂きました。その中でJCI大阪メンバーが、より多くのJCIメンバーと交流を図りながら主体的に役割を果たして頂くために各室ごとで参加メンバー全員にブースを担当して頂きました。
- 事業目的に達した点 各委員会にJCI大阪ブースのお手伝いを頂くことで、主体者として役割を果たす前向きな行動力を育んでいただきました。

5.北九州全国大会

- 事業の内容 JCI及びJCI日本事業への参加促進
- 実施日時 10月11日～14日
- 場所・会場 北九州市国際会議場
- 参加人数 計画:250名 結果:312名
- 実施方法の工夫 期待感溢れるチラシを作成し、事業の魅力を伝え感じていただき参加促進を行いました。
- 事業目的に達した点 アワード受賞式へたくさんのメンバーに参加頂き、自身の果たさなければならない役割を認識する場を提供出来たものと考えます。

6.アワード勉強会

- 事業の内容 JCI及びJCI日本褒章事業へのエントリー調整
- 実施日時 計8回
- 場所・会場 大阪JC事務局
- 実施方法の工夫 アワード申請により意義なものにするために、アワード申請までに勉強会を開催し、アワード受賞への期待感を高めると共に青年会議所に所属している意義を認識して頂きました。
- 事業目的に達しなかった点 アワード担当者以外のメンバーに対しての周知・案内ができていません。会場等の問題はありますが、アワード勉強会へ誰でも参加できる環境も必要だと感じます。

7.LOM間交流会

- 事業の内容 LOM間交流
- 実施日時 6月13日・11月6日
- 場所・会場 割烹 美作他
- 実施方法の工夫 今まで以上に友好関係を深めていくために、活動の報告会を実施致しました。
- 事業目的に達した点 本年度も岡山JC、金沢JCと交歓会を開催し、各地で地域に根ざした活動を身近に感じることが出来、長きにわたり友情を育んできた仲間とのつながりを実感することが出来たと考えております。

8.大阪ブロック出陣式

- 事業の内容 JCI及びJCI日本への出向者支援及び連絡調整
- 実施日時 1月30日
- 場所・会場 南港ハイアット
- 参加人数 結果:92名
- 実施方法の工夫 ホームページ、委員会MLを活用し、大阪ブロックの情報を配信致しました。
- 事業目的に達した点 多数のメンバーに参加を頂き、JCI大阪を代表して出向している仲間を支え思いやる気持ちを高められたと考えております。

委員長

城坂 千太郎



私たち、渉外委員会は大阪のまちに真の「つながり」を実現するために、大阪青年会議所メンバーに前向きな行動力を育むことを目的とした様々な事業を展開して参りました。

1月の京都会議に始まり、6月のアスパック香港大会、7月の近畿地区天理大会、7月のサマーコンファレンス2012、10月の全国大会北九州大会、11月の世界会議台北大会と国内涉外、国際涉外という扱いを預かり、メンバーにJCI及び日本JC事業の趣旨や参画意義をわかりやすく伝え、一貫した各種大会でのセミナー等の案内、LOMナイトの設営を行い、JCIや日本JCを身近な存在であることを知り参画してもらうことで、大阪青年会議所メンバーに一人ひとりが自らの役割を主体的かつ積極的に果たすメンバーを増やすことができました。また、各種大会のLOMナイトなどで日本JC、近畿地区協議会、大阪ブロックに出向頂いているメンバーの皆さんに、スポットライトがある場面を創り出し、大阪青年会議所を代表して出向頂く責任とLOMからの期待を感じて頂きました。そして、LOM間の交流を図るために本年度も岡山青年会議所、金沢青年会議所のメンバーの皆様と共に、地域は違えども明るい社会の実現を目指して運動を発信している同志として、JC運動に対する熱い想いを語り合う場を創り、メンバー一人ひとりの更なる成長と組織の躍進を強く求める機運を高めることが出来ました。また、JCI及び日本JCが開催する各種大会でのアワードにエントリーし、全てのアワードエントリーに対して勉強会を開催し、運動の目的、運動の拡がりや意義を再確認して頂きました。そして、アスパック香港大会では3つのアワードを受賞することが出来ました。

一年を通じて、大阪青年会議所メンバーに前向きな行動力を育むことで、大阪のまちに真の「つながり」を実現することができました。

STAFF

幹事 橋本 充雄	副委員長 河東 猛	委員 藤尾 雄一	浦本 佳則 浅井 太一	奥山 淑英 大芝 恒太	小林 洋子 加藤 康太	田中 大介 阪口 誠弘	長崎 忠雄 田中 有美子	二村 伸紀 中島 丈裕	吉澤 宏之 穂積 隼人
安平 寛宏	河野 尚樹	松田 裕之	大森 貴之 芦田 大輔	金山 忠広 小上 茂樹	佐藤 孝英 黒田 健夫	玉城 勇人 佐藤 裕介	中村 宜嗣 堤 亮介	堀 志帆 夏山 純也	六本 創 三浦 正行
羅 富生	萩田 訓之	有川 陽介	小川 健一 石橋 達也	小谷 忠嗣 塩田 勲	坪内 基真 神農 将史	能勢 善男 中井 敏	原田 智子 中井 敏	宮本 高明 森岡 久晃	渡邊 敬介
出口 貴之	竹上 新治	伊田 宗樹	芋木 太郎 後藤 大悟	鈴木 あかり 小林 孝行	中川 利治 鈴木 あかり	深井 光雄 中川 利治	山本 恵理		
吉田 拓	入船 宜子	小楠 哲子							



総務財政特別会議

Administrative Financial Special Meeting



議長
北野 嘉一

本年度の総務財政特別会議では、魅力的な社団法人大阪青年会議所の未来に向けて、現役会員や特別会員同士がより有益な関係を築くことのできる機会を増やし、同じ目標を共有する仲間たちが自利利他の精神を持って今ある課題を自分ごととして捉えて解決し、理想を追い求めるだけではなく大阪のまちの期待に添えるべく成果に拘り、時代を牽引する青年経済人として諦めず・妥協せず・勇気を持ってめざすべき掲げた理想に邁進し、六十二年間、連綿と続く社団法人大阪青年会議所の歴史や諸先輩方の想いを会員一人ひとりが受け継ぎそして次の時代に確実に引き渡す組織が必要であると考えました。

年初の池田会議の設営及び運営から始まり、通常総会・臨時総会の運営及び準備、毎月の財務審議会の運営、選挙における投票準備など、組織の要として会議体を運営して参りました。2012年度最初の対内事業である池田会議では室会議としての体裁を取り戻し、各室での会議を行いました。この室会議を行うことにより各室の横の“つながり”を強固にすることができたと確信しております。また、2012年度の委員会事業方針をメンバーの皆様に発表することで、各委員会の方向性をメンバー一同が共有することができました。組織の最高意思決定機関である通常総会及び臨時総会においては、メンバー一人ひとりに対して役割を自覚して頂き、そして責任を果たして頂く機会として運営を心掛けました。毎月の財務審議会においても、メンバーからお預かりしているお金を無駄にすることのないように財務審議会のメンバーをサポートし、全ての事業について円滑かつ効果的な運動を発信できるように運営を致しました。未来の社団法人大阪青年会議所を支える理事選挙においては、90%を超える投票率であり、過去最高の投票率となりました。組織の要として裏方に徹した1年間でしたが、未来の社団法人大阪青年会議所が少しでも良き方向に向かうことを総務財政特別会議一同心より祈念致します。



STAFF

幹事	副委員長	委員	橋高 和芳	里内 博文	中村 恒太	美藤 俊介	山崎 紀文
宇治部 英明	江口 雄三	青山 修司	久我 隆一	塩田 祐大	中村 大祐	藤田 恭子	吉村 久
太田 光治	関口 正輝	池田 健志	神島 肇介	昭野 元宏	西川 智子	松下 正平	
田中 大介	前田 征道	岩出 和哲	小林 英彰	杉田 貴志	西山 茂	森本 琢磨	
本元 宏和		菊岡 道行	税所 貴一	中居 由男	林本 大	矢口 浩二	

特命室

Extraordinary Department



室長
中川 晃一

本年は、特命室という過去にない新しい形の室を設け、「大阪のまちに眞の「つながり」を実現しよう！～すべては自分ごと～安心して暮らせる安全なより良いまち創りをめざして」を実現すべく行動してまいりました。

特命室では室テーマ、そして室の担う運動を実現する委員会も設けませんでした。特命とは「特別の命令、任命」とあります。大阪のまちに眞のつながりを実現するために、杉野理事長は「子ども」「まち」「次代」「総務」における「つながり」で運動展開されてきました。しかし、どのカテゴリーにも属さない新たな側面から、或いは複数の室に関係性がある運動展開を必要としたとき、横断的かつ主導的にその役割を「特別の命令」として担うのが特命室としての使命でした。また大阪青年会議所の常任理事の役割を務めながら、大阪ブロック協議会の総務・広報委員長として出向をし、大阪青年会議所と大阪ブロック協議会との太い「つながり」を責任をもって実現してまいりました。これも、大阪のまちに「眞」のつながりを実現すべく特命として任務を遂行してまいりました。本年度におきまして、大阪ブロック協議会との「つながり」の他、年度末に解散しました衆議院の総選挙に向けた公開討論会の企画と実施を行いました。通常であれば本年度は国政選挙及び地方選挙が行われない年ということもあり、大阪のまちの人びとに選挙に関連してまちに対する関心や未来のまちを創るという、選挙をきっかけとした自分のまちのことを自分ごととして捉える運動を実施する予定はありませんでした。しかし、年度末に衆議院が解散し、総選挙が実施されることとなりました。大阪のまちの人びとにまちのことを自分ごととして捉える運動は、本年度の各室の運動に大いにかかわるものであり、担当室・委員会を決めず大阪青年会議所全体で取り組む、特命事業として実施しました。まちの人びとにまちの未来を自分ごと捉えてもらうために、大阪1区から6区にわたって立候補予定の各政党に代表者を輩出して頂き、まちの集合体である國の抱える問題に対する各政党の政策を比較できる内容の公開討論会を実施いたしました。各政党に参加要請をしたところ6つの政党から承諾を頂き、与党野党の明確な政策の比較ができました。またその模様をH P上において閲覧できるWEB公開討論会も並行しての実施と、日本青年会議所が推進する「eみらせん」にも連動することができ、自らのまちの未来を自分ごととして捉えられる、まちにとって非常に有意義な運動を展開することができました。

本年度、特命室として実施いたしました事業にご参画、ご協力賜りまして誠にありがとうございました。皆様にお礼申し上げまして、一年の締め括りとさせていただきます。



1月 14日 池田不死王閣

講師 東 ちづるさん



2月 17日 帝国ホテル大阪

講師 寺尾 仁志さん
with human-note



3月 16日 帝国ホテル大阪

講師 ガツツ石松さん



4月 20日 帝国ホテル大阪

講師 所 功さん



5月 23日 リーガロイヤルホテル大阪

北地域合同例会
講師 鴻池 祥肇さん



6月 22日 帝国ホテル大阪

講師 野田 智義さん
特定非営利法人アイ・エス・エル理事長
講演テーマ
求められる「個」のリーダーシップ



7月 13日 帝国ホテル大阪

講師 野村 忠宏さん



8月 8日 リーガロイヤルホテル大阪
3階 光琳の間

OB現役
交歓会



9月 21日 帝国ホテル大阪

本コーカス



10月 9日 NHKホール

P C Y 共催
講師 財部 誠一さん
経済ジャーナリスト



11月 14日 帝国ホテル大阪

講師 フランク・フォーリーさん
ギネスワールドレコード日本支社長
講演テーマ
ギネスを通じた地域の活性化



12月 6日 リーガロイヤルホテル大阪

会員大会



会員大会・卒業式

2012年12月6日、リーガロイヤルホテル大阪にて、会員大会・卒業式が行われました。
現役メンバー、卒業生を含めて519人の参加がありました。



■ プレジデンシャルリリース伝達式



2012年度会員褒賞

理事長特別賞

- 中島章悟
(まちの「つながり」創造委員会)
- 安心・安全なまち創造委員会

JC運動推進賞

- 子どもの未来育成委員会
- 次代の人財育成委員会

最優秀事業賞

- 親子の「つながり」の構築
(親子の「つながり」創造委員会)

優秀事業賞

- 全体事業の企画と実施
(まちの「つながり」創造委員会)
- TOYP事業の企画と実施
(次代の「つながり」創造委員会)

最優秀委員会賞

- 渉外委員会

優秀委員会賞

- 会員開発委員会

最優秀出向者賞

- 長尾朋成
(親子の「つながり」創造委員会)

優秀出向者賞

- 阪野瑞穂(会員開発委員会)
- 杉本智則(会員開発委員会)
- 長村みさお
(親子の「つながり」創造委員会)
- 出口一馬
(親子の「つながり」創造委員会)
- 安藤利江(子どもの未来育成委員会)
- 宮本高明(渉外委員会)
- 稲所貴一(総務財政特別会議)

最優秀会員賞

- 清水大介
(親子の「つながり」創造委員会)

優秀会員賞

- 西谷かおり(会員開発委員会)
- 森下雄司(会員開発委員会)
- 高井昌昭
(親子の「つながり」創造委員会)
- 山口良里子
(次代の「つながり」創造委員会)
- 宮本恵美子(広報委員会)

最優秀新人賞

- 井上幹盛(会員開発委員会)

優秀新人賞

- 竹田哲之助(会員開発委員会)
- 中村圭祐
(次代の人財育成委員会)
- 前田豊紀
(次代の「つながり」創造委員会)
- 安平晃宏(渉外委員会)
- 羅 富生(渉外委員会)
- 本元宏和(総務財政特別会議)

特別功労賞

- 杉野利幸

功労賞

- 出口憲作
- 中川翼
- 阪本祐浩
- 清水大介
- 藤原誠
- 上田多一郎



新聞掲載



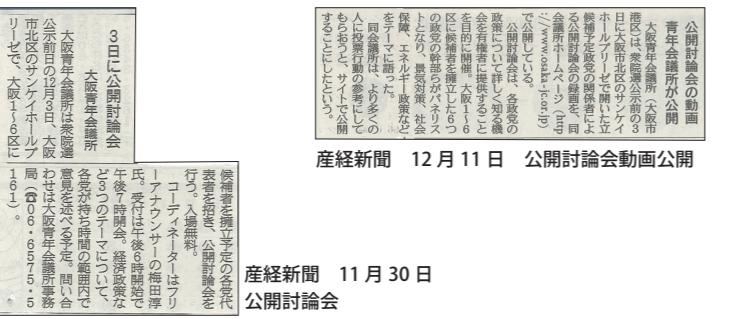
大阪日日新聞 5月13日 わんぱく相撲



日刊ケイザイ 1月16日 理事長運動方針



日刊ケイザイ 1月17日 今年の運動方針



産経新聞 12月11日 公開討論会動画公開

新聞広告



産経新聞 11月28日 公開討論会



テレビ告知など



関西テレビ「ハピくるっ」7月25日放送 なにわ淀川花火大会

雑誌掲載



Meets Regional 293号



関西ウォーカー 8月21日号



Meets Regional 291号



GUINNESS WORLD RECORDS 2013 最多人数の指相撲

関西ウォーカー 9月18日号

制作物



パンフレット



中吊り



ポスター わんぱく相撲

杉野利幸



編集後記

2012年度、社団法人大阪青年会議所は、杉野利幸理事長の掲げる“大阪のまちに真の「つながり」を実現しよう！”をスローガンに様々な運動を展開しました。このアニュアルレポートは、その1年間の活動をまとめたものです。私たちの運動の成果を多くの皆様に見ていただき、JC活動への理解を深めていただければ、という思いで編集したものです。

次年度以降もさらに多くの方にご協力をいただき、JC活動を広げていければ幸いです。

1年間、我々の運動にご理解をいただき、様々な事業や活動を支えていただきました、大阪市をはじめとする行政機関・関係諸団体・企業・市民のすべての皆様にお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

総務室広報委員会 委員長 岡部倫典

企画・編集 総務室広報委員会

発 行 社団法人大阪青年会議所

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番30号オーク4番街401号

TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163

<http://www.osaka-jc.or.jp>

発行日 2013年3月 制作／株式会社どりむ社 印刷／株式会社スマイル